

## 2-2 一般高齢者【重点】調査

### (1) ご本人について

#### ①調査票の記入者

<図表61> 調査票の記入者

調査数	調査票の記入者			
	本人	家族	その他	無回答
2,003	1,651	51	3	298

#### ②現在の状況（本人の不在の事情）

<図表62> 現在の状況（本人の不在の事情）

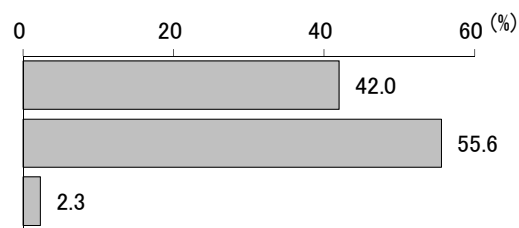
調査数	現在の状況（本人の不在の事情）					左記に該当しない
	医療機関 に入院中	福祉施設 に入所中	転居	死亡	その他	
2,003	8	1	1	-	26	1,967

以下、1,967人に対する集計結果を示す。

#### ③性別

<図表63> 性別

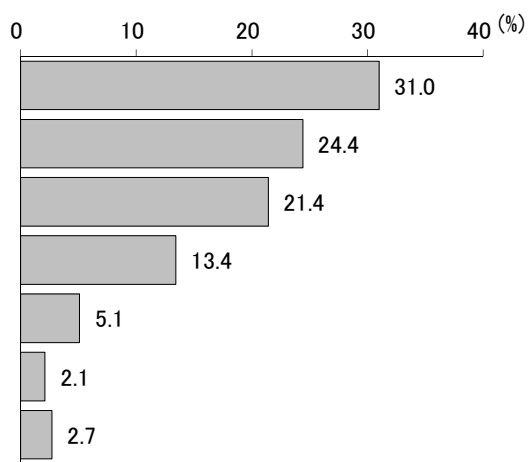
	基数	構成比
男性	827	42.0%
女性	1,094	55.6%
無回答	46	2.3%



④年齢

<図表64> 年齢

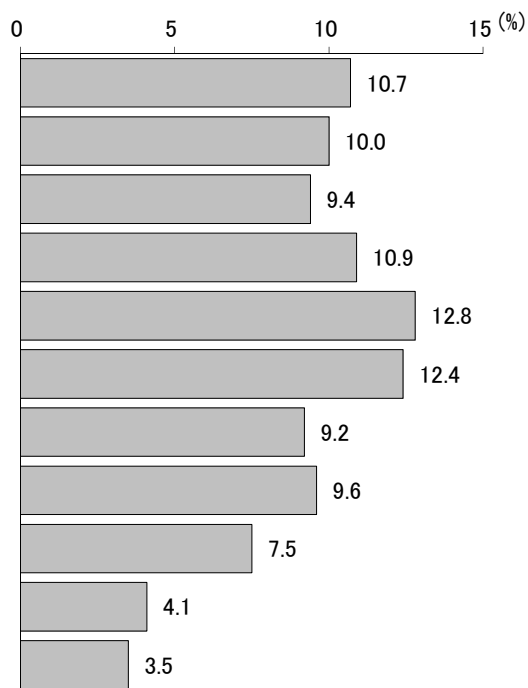
	基数	構成比
65歳～69歳	610	31.0%
70歳～74歳	479	24.4%
75歳～79歳	420	21.4%
80歳～84歳	263	13.4%
85歳～89歳	100	5.1%
90歳以上	41	2.1%
無回答	54	2.7%



⑤お住まいの地区

<図表65> お住まいの地区

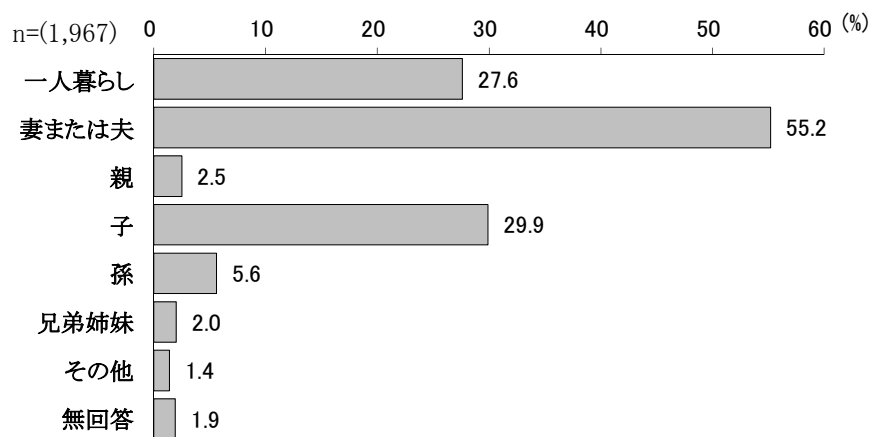
	基数	構成比
四谷	211	10.7%
簗笥町	196	10.0%
榎町	185	9.4%
若松町	215	10.9%
大久保	251	12.8%
戸塚	244	12.4%
落合第一	181	9.2%
落合第二	188	9.6%
柏木	147	7.5%
角筈	80	4.1%
無回答	69	3.5%



⑥同居者

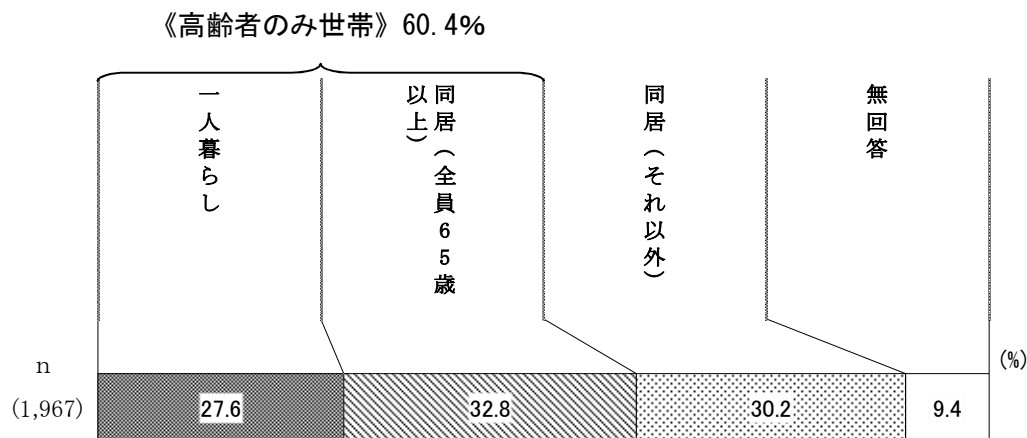
問4 現在、あなたはどなたかと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。(あてはまるものすべてに○)

<図表66> 同居者（複数回答）



同居の状態をたずねたところ、「一人暮らし」(27.6%)が2割台半ばを超えている。同居者は、「妻または夫」(55.2%)が5割台半ば、「子」(29.9%)が3割弱となっている。

<図表67> 世帯構成

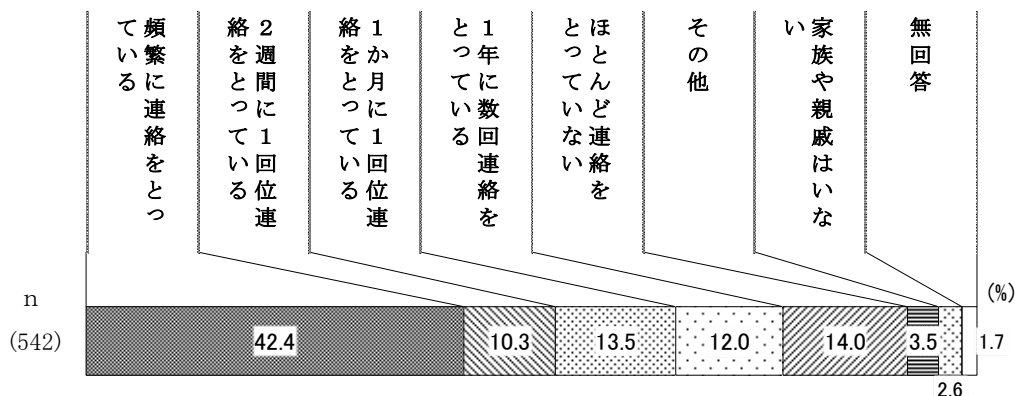


世帯構成について、「一人暮らし」(27.6%)と「同居(全員65歳以上)」(32.8%)をあわせた《高齢者のみ世帯》は60.4%となっている。

⑦家族や親戚との連絡

問4-1 《問4で「一人暮らし」を選んだ方のみお答えください》  
 あなたは、ご家族やご親戚と連絡をどのくらいとっていますか。(1つに○)

<図表68> 家族や親戚との連絡

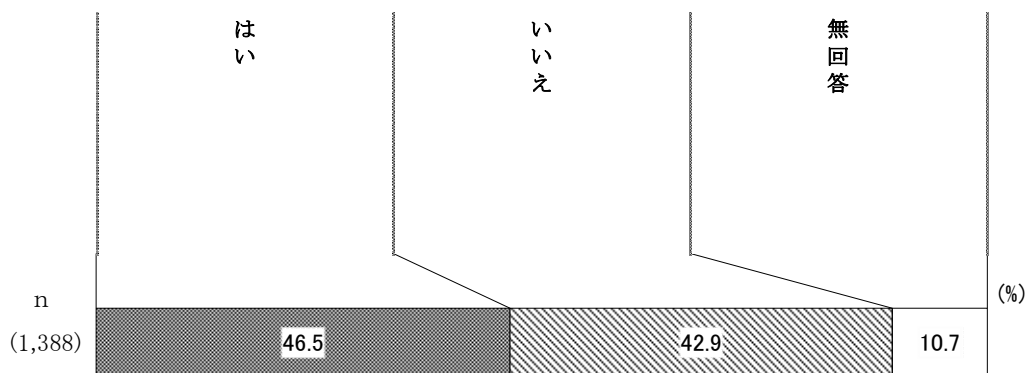


問4で「一人暮らし」と回答した人に家族や親戚と連絡をとっている頻度をたずねたところ、「頻繁に連絡をとっている」(42.4%)が4割強で最も高くなっている。

⑧同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

問4-2 《問4で「一人暮らし」以外を選んだ方のみお答えください》  
 同居の方は、全員65歳以上ですか。(1つに○)

<図表69> 同居者の年齢 (全員65歳以上か否か)

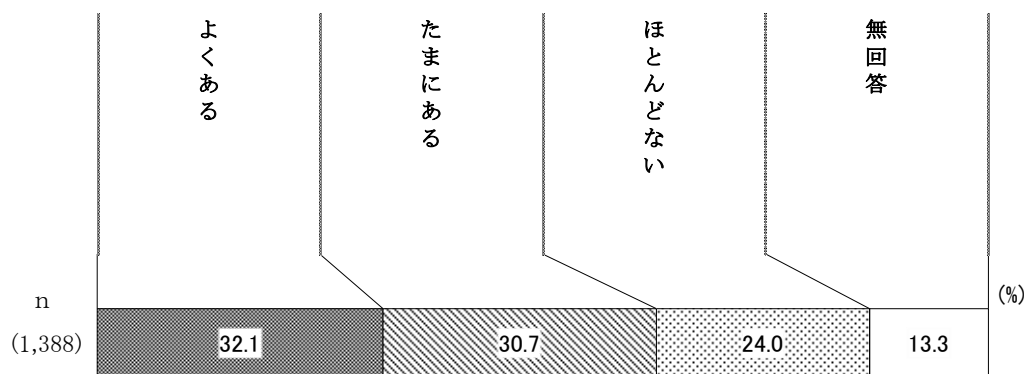


問4で《同居者がいる》と回答した人に同居者が全員65歳以上かたずねたところ、「はい」(46.5%)は4割台半ばを超えている。

⑨日中の独居状況

問4-3 《問4で「一人暮らし」以外を選んだ方のみお答えください》  
日中、一人になることはありますか。(1つに○)

<図表70> 日中の独居状況

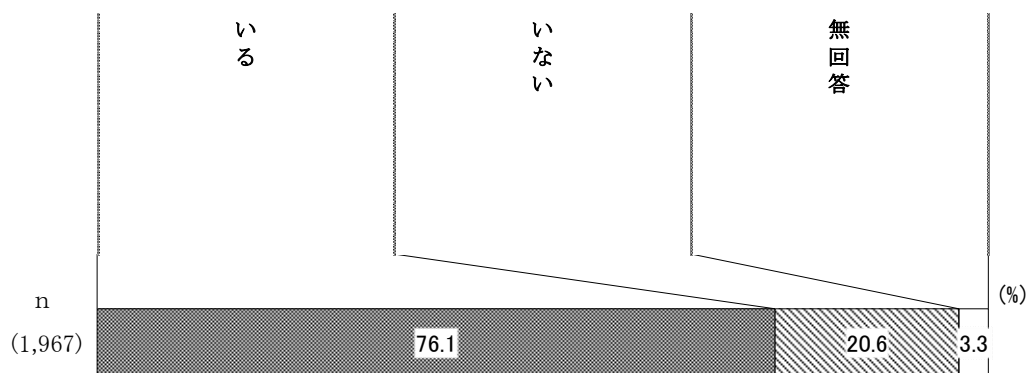


問4で《同居者がいる》と回答した人に日中一人になることがあるかたずねたところ、「よくある」(32.1%)が3割強で最も高く、次いで、「たまにある」(30.7%)、「ほとんどない」(24.0%)の順となっている。

⑩同居者以外に手助けを頼める人の有無

問5 あなたが日常生活で困ったことがあった時、同居者以外に誰か手助けを頼める人がいますか。(1つに○)

<図表71> 同居者以外に手助けを頼める人の有無

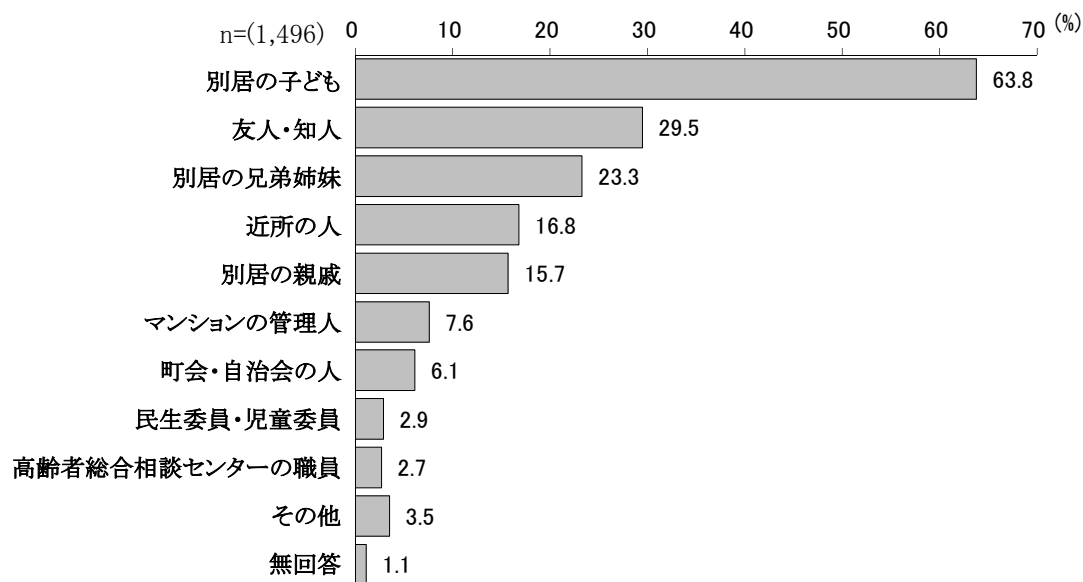


同居者以外に日常生活で困った時に手助けを頼める人の有無をたずねたところ、「いる」(76.1%)は7割台半ばを超えている。

⑪手助けを頼める人

問5-1 《問5で「いる」を選んだ方のみお答えください》  
手助けを頼める人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表72> 手助けを頼める人(複数回答)

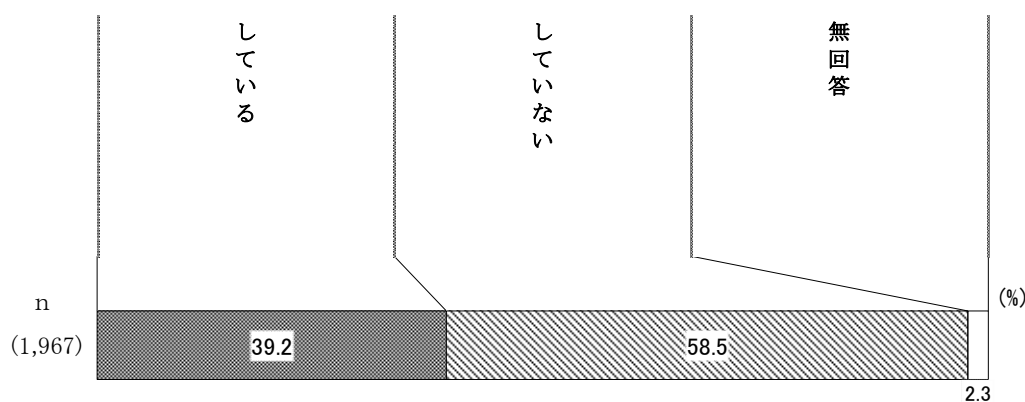


問5で同居者以外に手助けを頼める人が「いる」と回答した人に、その依頼先をたずねたところ、「別居の子ども」(63.8%)が6割台半ば近くと最も高く、次いで、「友人・知人」(29.5%)、「別居の兄弟姉妹」(23.3%)の順となっている。

⑫就業状況

問6 あなたは現在、収入のある仕事をしていますか。(1つに○)

<図表73> 就業状況

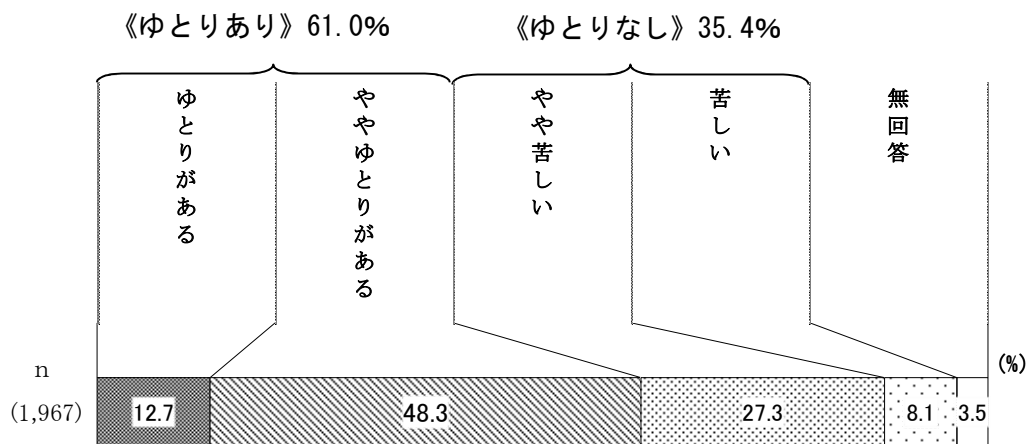


就業状況をたずねたところ、収入のある仕事を「している」(39.2%)は4割弱となっている。

⑬現在の暮らし向き

問7 あなたは、現在のご自身の暮らし向きをどのように感じていますか。(1つに○)

<図表74> 現在の暮らし向き



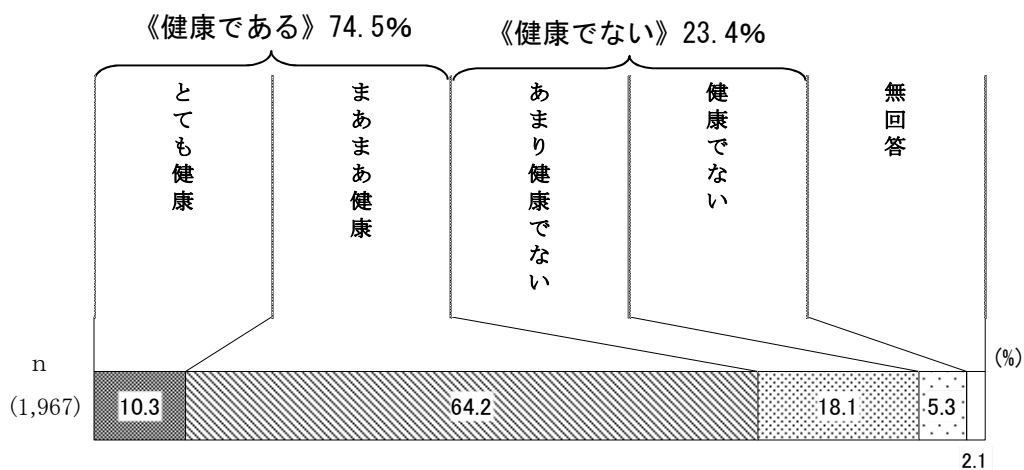
現在の暮らし向きについてたずねたところ、「ゆとりがある」(12.7%)と「ややゆとりがある」(48.3%)をあわせた《ゆとりあり》は61.0%となっている。

(2) 健康状態や健康づくり等について

①健康状態

問8 あなたは、健康だと思いますか。(1つに○)

<図表75> 健康状態



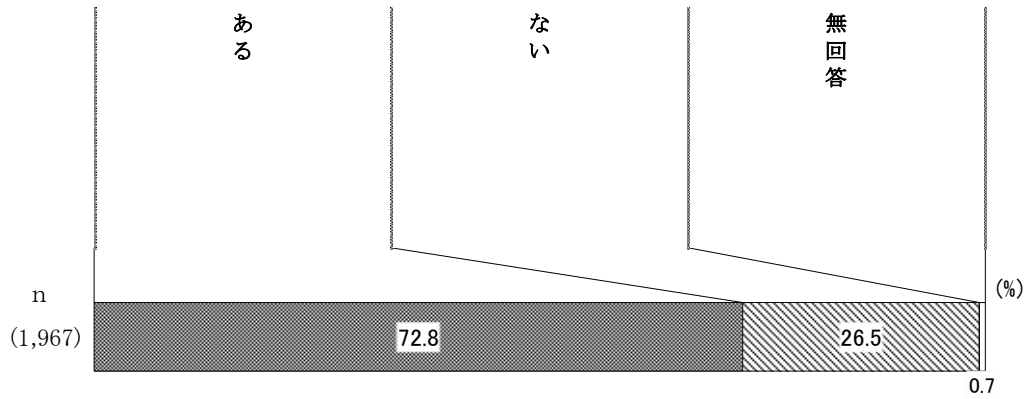
自身の健康状態についてたずねたところ、「とても健康」(10.3%)と「まあまあ健康」(64.2%)をあわせた《健康である》は74.5%となっている。



②治療中の病気の有無

問9 あなたは、現在治療中の病気がありますか。(1つに○)

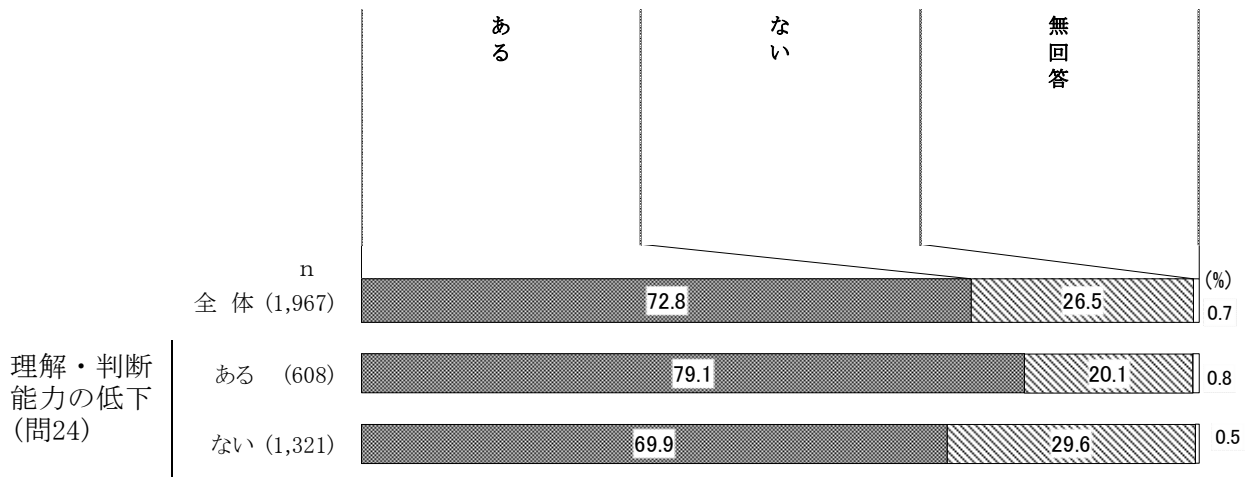
<図表76> 治療中の病気の有無



現在治療中の病気の有無をたずねたところ、「ある」(72.8%)が7割強となっている。

理解・判断能力の低下を感じたことの有無別でみると、現在治療中の病気が「ある」割合は、理解・判断能力の低下を感じたことがあるほうが9.2ポイント高くなっている。

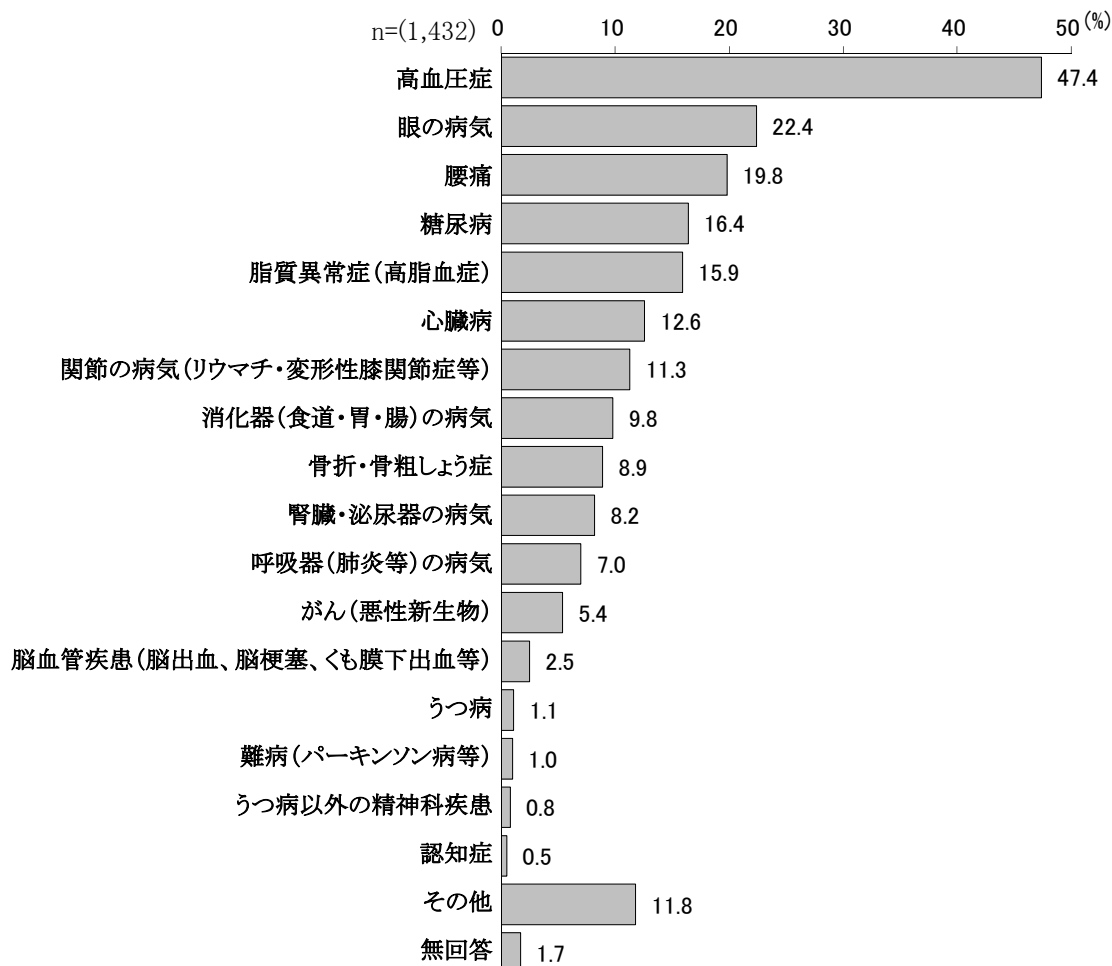
<図表77> 治療中の病気の有無【理解・判断能力の低下を感じたことの有無別(問24)】



③治療中の病気の種類

問9-1 <<問9で「ある」を選んだ方のみお答えください>>  
 治療中の病気は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表78> 治療中の病気の種類 (複数回答)



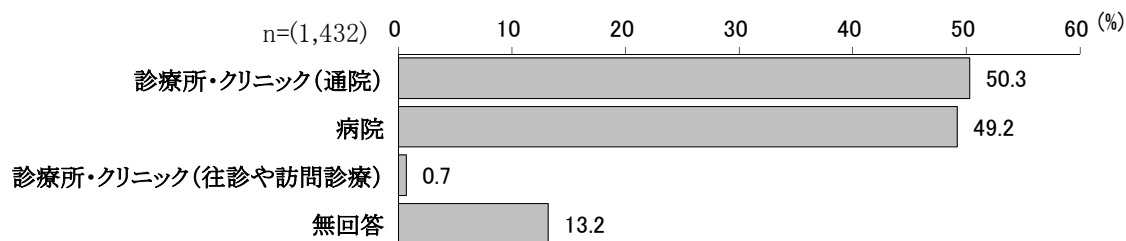
問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に治療中の病気についてたずねたところ、「高血圧症」(47.4%)が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「眼の病気」(22.4%)、「腰痛」(19.8%)の順となっている。「その他」では、アレルギー、皮膚病、痛風といった内容があげられた。

④受診している医療機関

問9-2 《問9で「ある」を選んだ方のみお答えください》

受診している医療機関は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表79> 受診している医療機関（複数回答）

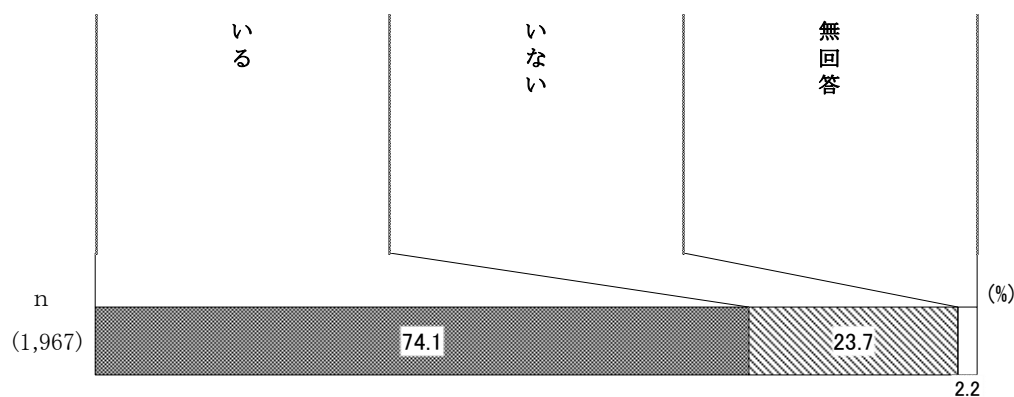


問9で治療中の病気が「ある」と回答した人に受診している医療機関についてたずねたところ、「診療所・クリニック(通院)」(50.3%)が約5割、「病院」(49.2%)が5割弱とともに高くなっている。

⑤かかりつけ医の有無

問10 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

<図表80> かかりつけ医の有無

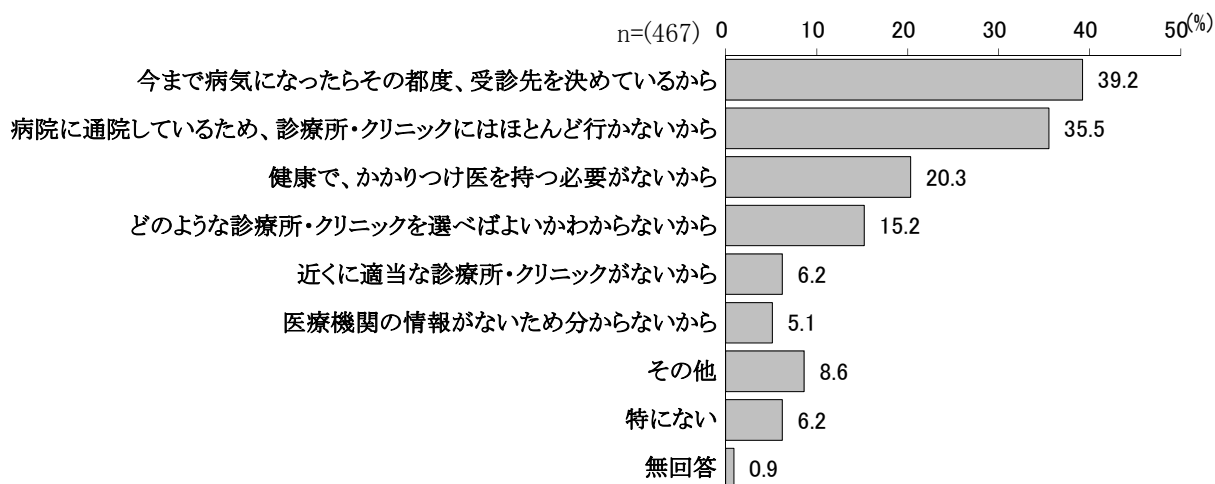


かかりつけ医の有無をたずねたところ、「いる」(74.1%)が7割台半ば近くとなっている。

⑥かかりつけ医がない理由

問10-1 《問10で「いない」を選んだ方のみお答えください》  
 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表81> かかりつけ医がない理由 (複数回答)

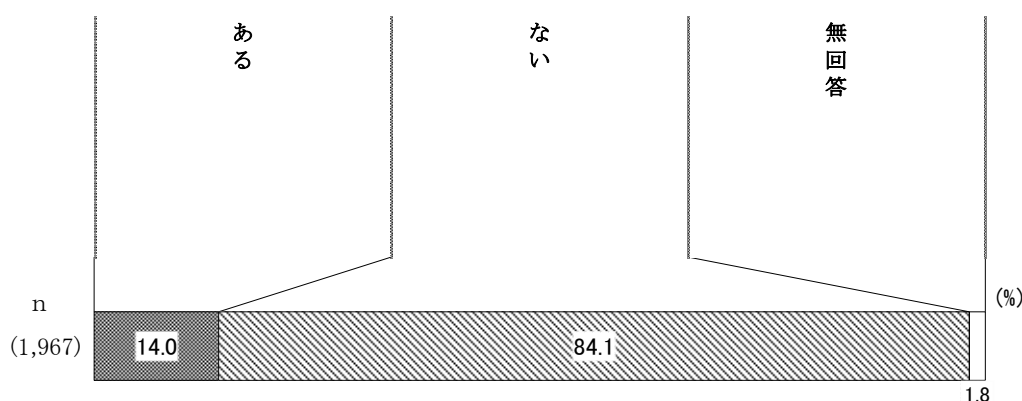


かかりつけ医がない理由をたずねたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」(39.2%)が4割弱と最も高く、次いで、「病院に通院しているため、診療所・クリニックにはほとんど行かないから」(35.5%)、「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」(20.3%)の順となっている。

⑦過去1年以内に入院した経験

問11 あなたは、過去1年以内に入院した経験がありますか。(1つに○)

<図表82> 過去1年以内に入院した経験

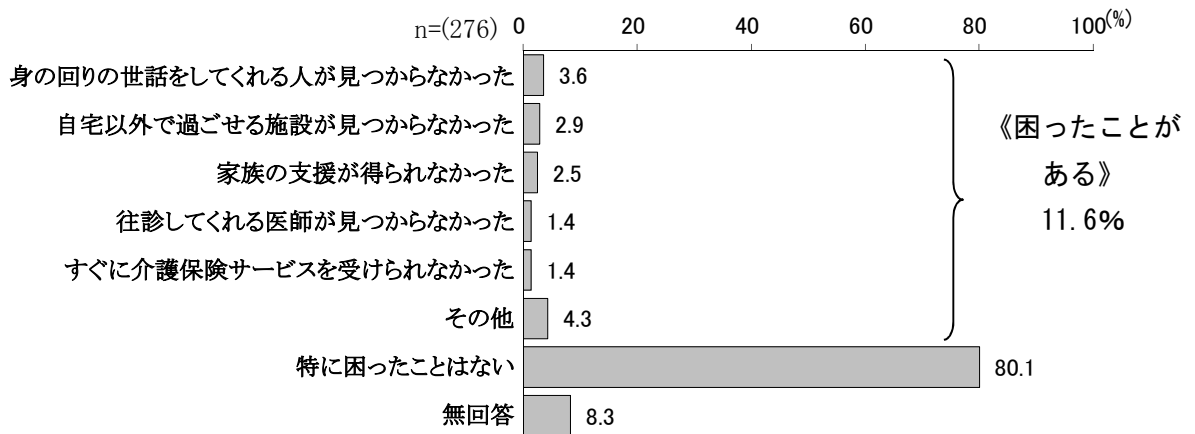


過去1年以内に入院した経験の有無をたずねたところ、「ある」(14.0%)は1割台半ば近くとなっている。

⑧退院にあたって困ったこと

問11-1 《問11で「ある」を選んだ方のみお答えください》  
 退院にあたって困ったことは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表83> 退院にあたって困ったこと (複数回答)

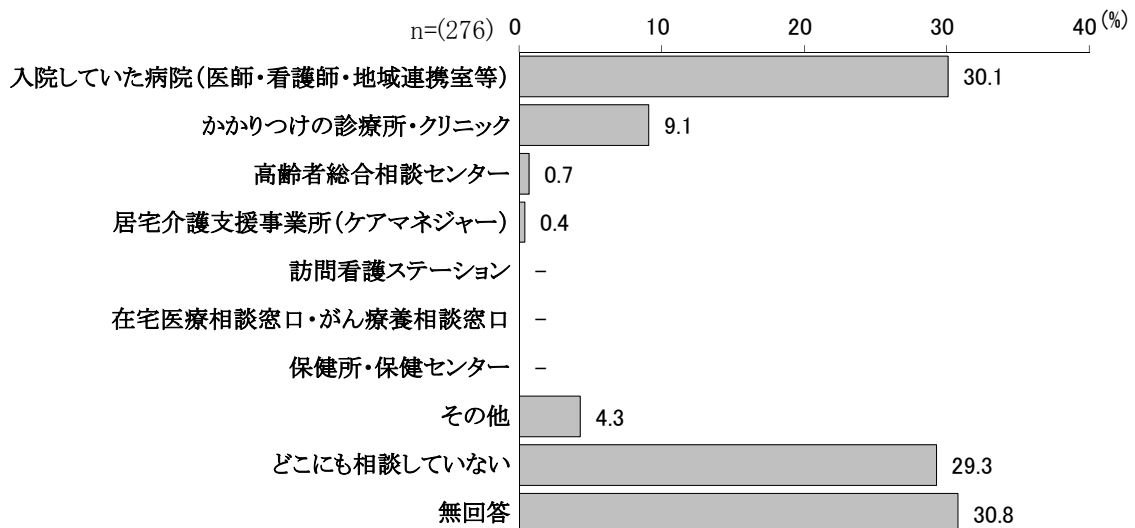


問11で過去1年間に入院した経験が「ある」と回答した人に、退院にあたって困ったことをたずねたところ、「特に困ったことはない」(80.1%)が約8割となっている。

⑨退院にあたっての相談先

問11-2 《問11で「ある」を選んだ方のみお答えください》  
 退院にあたって、自宅で治療や介護を受けるために、どちらに相談しましたか。  
 (あてはまるものすべてに○)

<図表84> 退院にあたっての相談先 (複数回答)



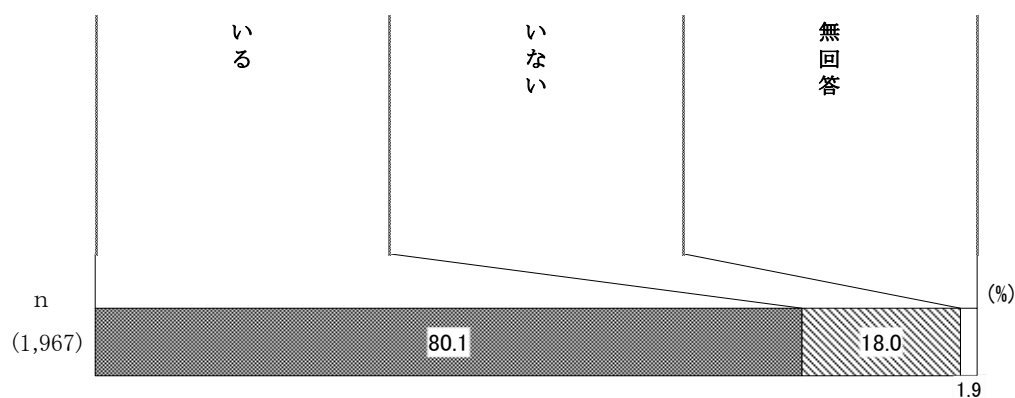
問11で過去1年間に入院した経験が「ある」と回答した人に、退院にあたって、自宅で治療や介護を受けるために相談したところをたずねたところ、「入院していた病院(医師・看護師・地域連携室等)」(30.1%)が約3割と最も高くなっている。一方、「どこにも相談していない」(29.3%)は3割弱となっている。

(3) 歯科について

① かかりつけ歯科医の有無

問12 あなたは、治療や予防のために気軽に受診できる「かかりつけ歯科医」がいますか。  
(1つに○)

<図表85> かかりつけ歯科医の有無

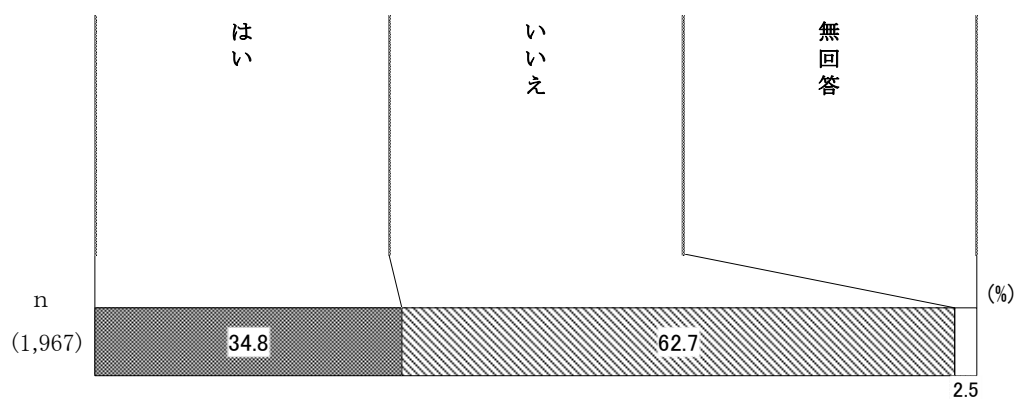


かかりつけ歯科医の有無をたずねたところ、「いる」(80.1%)は約8割となっている。

② 往診してくれる歯科医院の認知度

問13 あなたは、往診してくれる歯科医院があることをご存じですか。(1つに○)

<図表86> 往診してくれる歯科医院の認知度



往診してくれる歯科医院の認知度をたずねたところ、「はい」(34.8%)が3割台半ば近くとなっている。

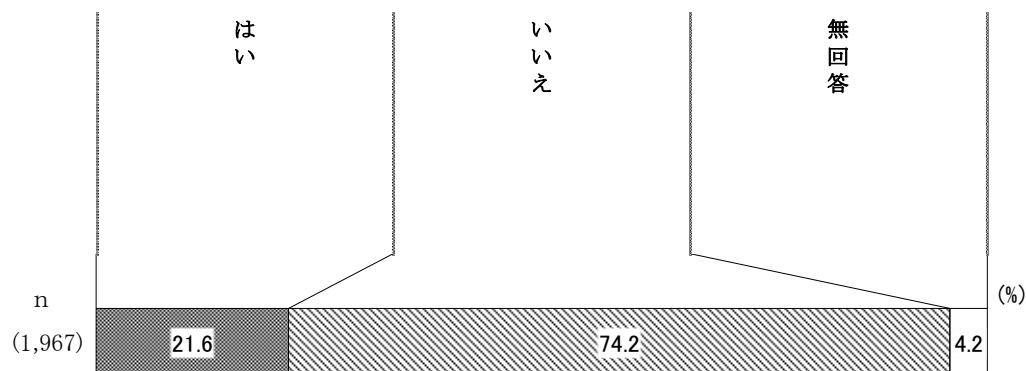
(4) 摂食嚥下(食べる機能)について

①食べる機能について

問14 あなたの食べる機能について、ア～ウのすべての質問にお答えください。  
(それぞれ1つに○)

<図表87> 食べる機能について

ア. 半年前に比べて硬いものが食べにくいですか



イ. お茶や汁等でむせることがありますか



ウ. 口の渇きが気になりますか

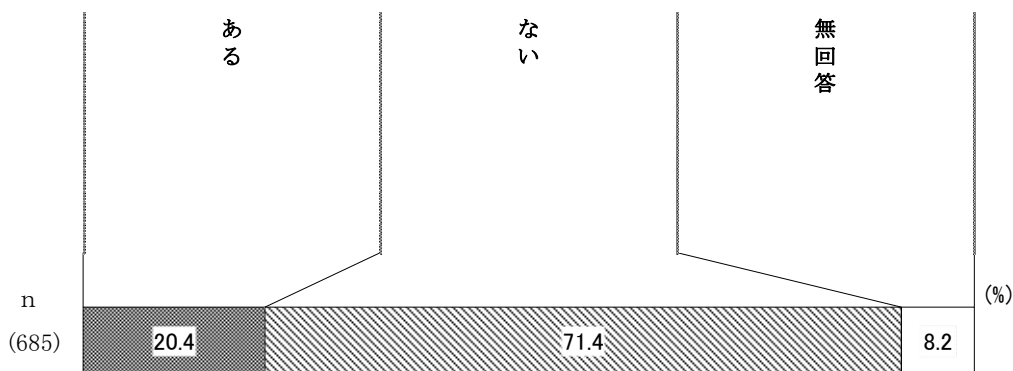


硬いものの食べにくさの有無をたずねたところ、「はい」(21.6%)が2割強となっている。  
お茶や汁等でむせることの有無をたずねたところ、「はい」(20.8%)が約2割となっている。  
口の渇きの有無をたずねたところ、「はい」(21.4%)が2割強となっている。

② 専門家に相談したことの有無

問14-1 ≪問14のア～ウのいずれかで「はい」を選んだ方のみお答えください≫  
 専門家に相談したことはありますか。(1つに○)

<図表88> 専門家に相談したことの有無

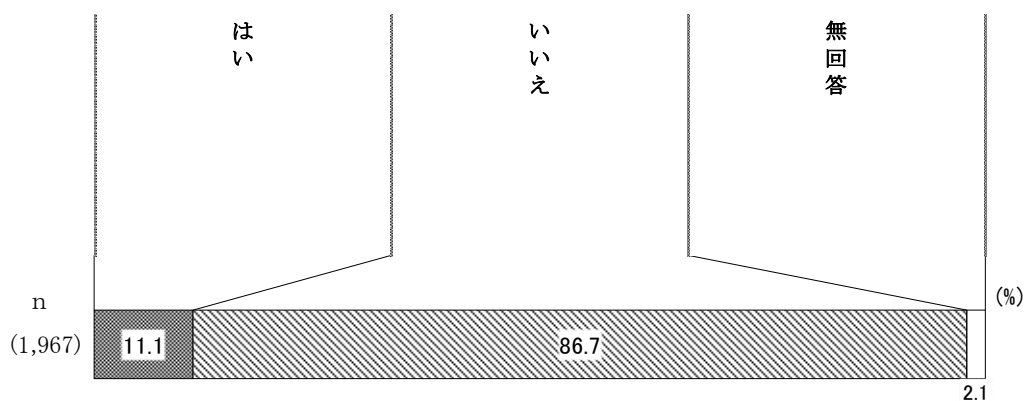


問14で食べる機能について「はい」と回答した人に、専門家に相談したことの有無をたずねたところ、「ある」(20.4%)が約2割、「ない」(71.4%)が7割強となっている。

③ 食べる機能が衰えてきた時の相談先の認知度

問15 あなたは、食べる機能が衰えてきた時、区の在宅医療相談窓口等で、相談にのってもらえることをご存じですか。(1つに○)

<図表89> 食べる機能が衰えてきた時の相談先の認知度



食べる機能が衰えてきた時の相談先の認知度をたずねたところ、「はい」(11.1%)が1割強となっている。

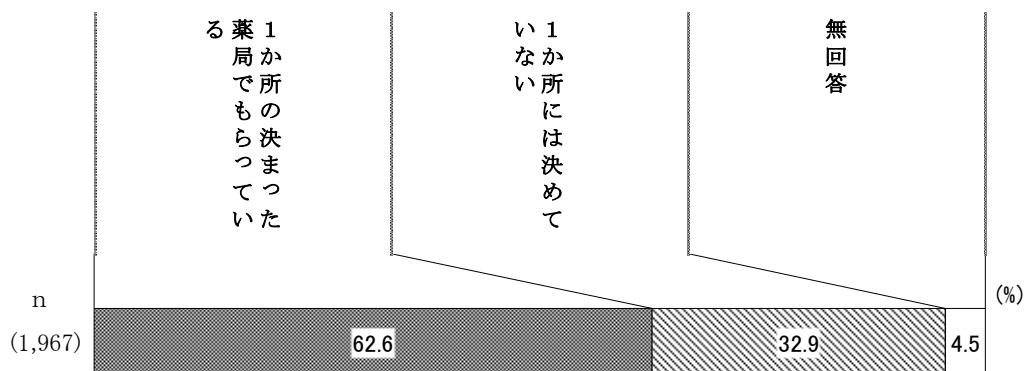


(5) 薬局について

①薬をもらう薬局の特定

問16 あなたは、病院・診療所から処方された薬をもらう薬局を1か所に決めていますか。  
(1つに○)

<図表90> 薬をもらう薬局の特定

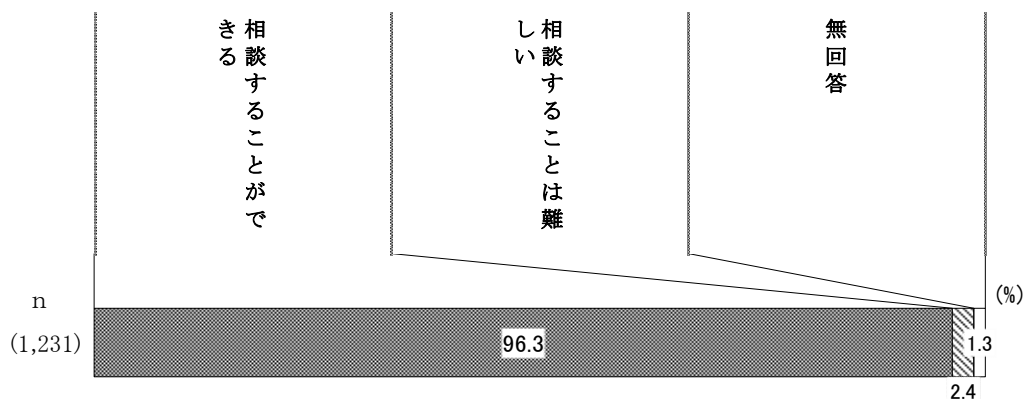


薬をもらう薬局を1か所に決めているかたずねたところ、「1か所の決まった薬局でもらっている」(62.6%)が6割強、「1か所には決めていない」(32.9%)が3割強となっている。

②薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

問16-1 <<問16で「1か所の決まった薬局でもらっている」を選んだ方のみお答えください>>  
その薬局では、薬の説明を聞いたり、相談をすることができますか。(1つに○)

<図表91> 薬の説明を聞いたり、相談することの可能性

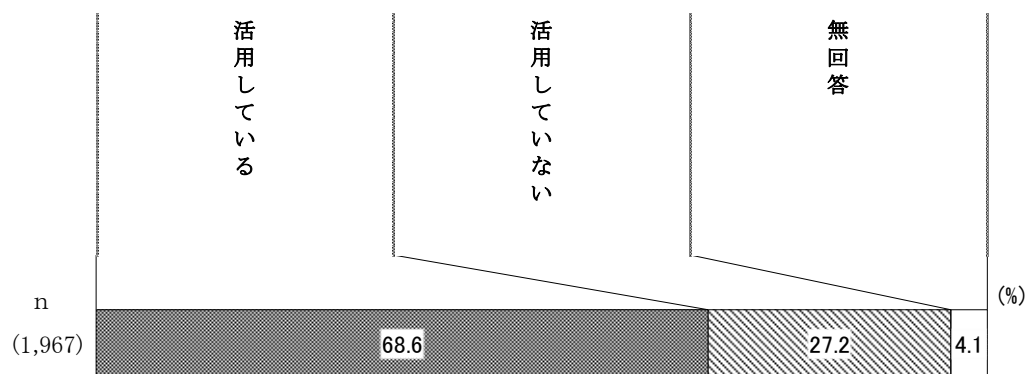


問16で「1か所の決まった薬局でもらっている」と回答した人に、薬局で薬の説明を聞いたり、相談することができるかたずねたところ、「相談することができる」(96.3%)が9割台半ばを超えている。

③お薬手帳の活用状況

問17 医師や薬剤師に見せることであなたの薬の情報が正しく伝わり、治療方針を検討する役に立てることができる「お薬手帳」を活用していますか。(1つに○)

<図表92> お薬手帳の活用状況



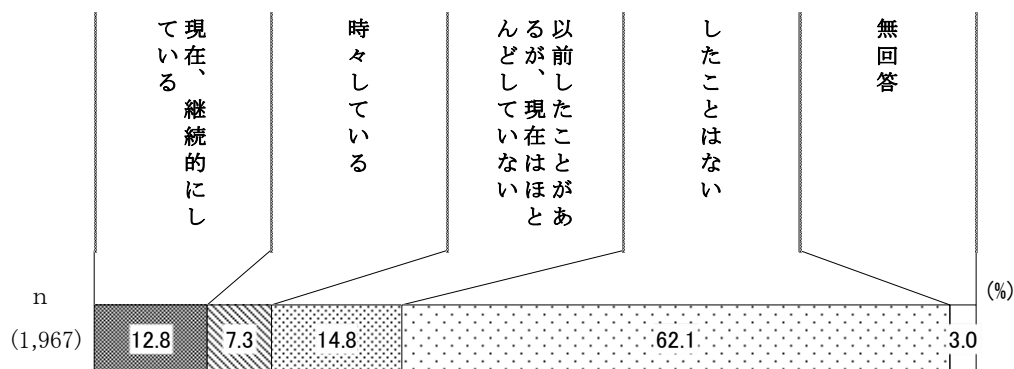
お薬手帳の活用状況をたずねたところ、「活用している」(68.6%)は7割近く、「活用していない」(27.2%)は2割台半ばを超えている。

(6) 支援を必要とする高齢者を支えるしくみづくりについて

①地域活動やボランティア活動等の状況

問18 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子ども会など、以下同様）やボランティア活動等をしていますか。（1つに○）

<図表93> 地域活動やボランティア活動等の状況

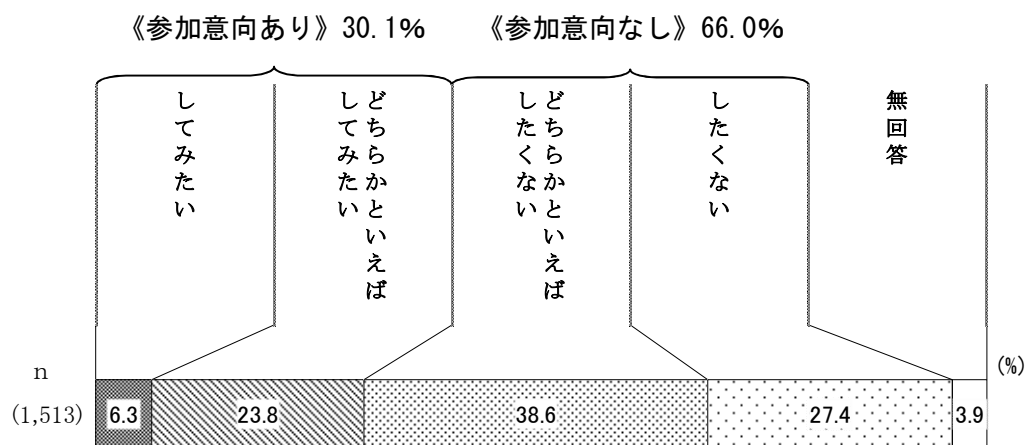


地域活動やボランティア活動等の状況をたずねたところ、「したことはない」（62.1%）が6割強と最も高く、次いで、「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」（14.8%）、「現在、継続的にしている」（12.8%）の順となっている。

②今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

問18-1 《問18で「以前したことがあるが、現在はほとんどしていない」または「したことはない」を選んだ方のみお答えください》  
 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか。(1つに○)

<図表94> 今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向

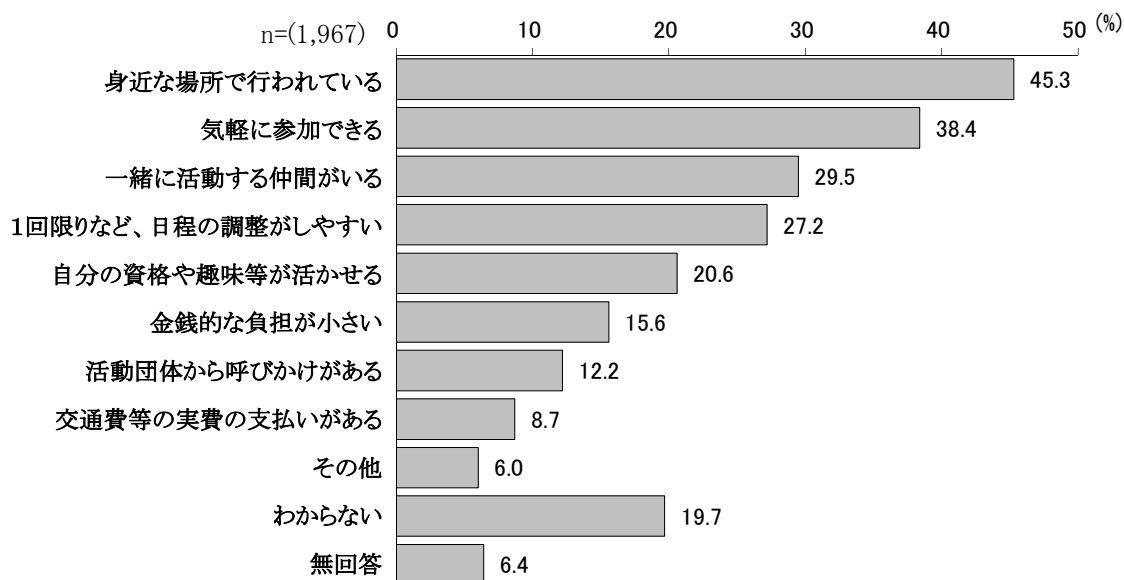


問18で「以前したことがあるが、現在はしていない」または「したことはない」と回答した人に今後の地域活動やボランティア活動等への参加意向についてたずねたところ、「してみたい」(6.3%)と「どちらかといえばしてみたい」(23.8%)をあわせた《参加意向あり》は30.1%となっている。

③地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形

問19 あなたはどのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表95> 地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形 (複数回答)

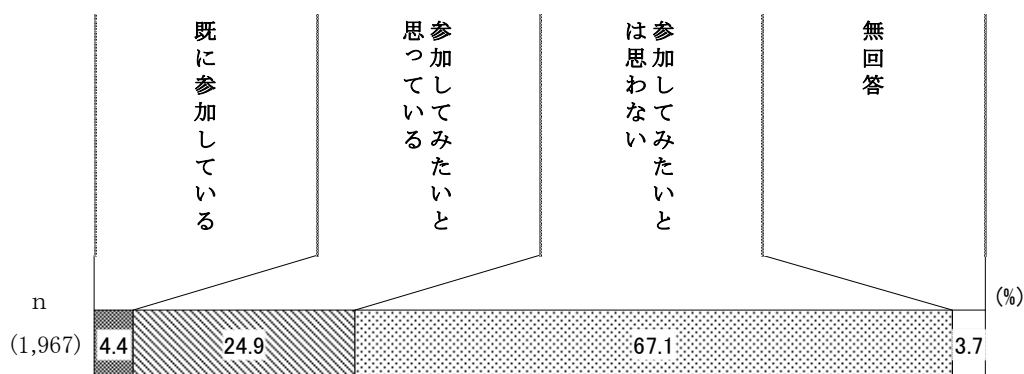


地域活動やボランティア活動等に参加しやすい形をたずねたところ、「身近な場所で行われている」(45.3%)が4割台半ばで最も高く、次いで、「気軽に参加できる」(38.4%)、「一緒に活動する仲間がいる」(29.5%)の順となっている。

④高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向

問20 あなたは、支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動に機会があれば参加してみたいですか。（1つに○）

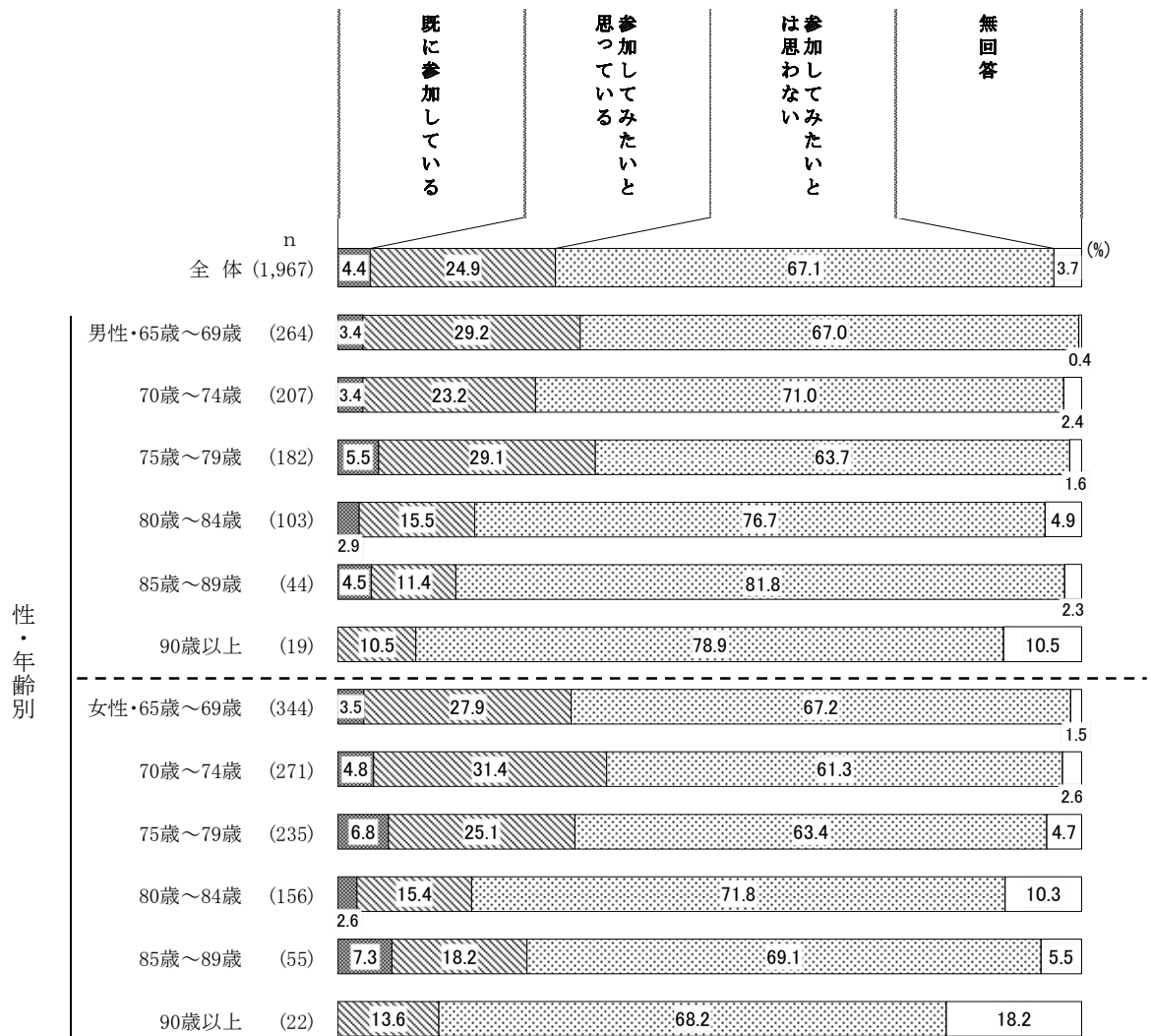
<図表96> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向



高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向をたずねたところ、「参加してみたいとは思わない」（67.1%）が6割台半ばを超え最も高く、次いで、「参加してみたいと思っている」（24.9%）、「既に参加している」（4.4%）の順となっている。

性・年齢別でみると、「参加したいと思っている」は、年齢が上がるほど、減少する傾向にある。

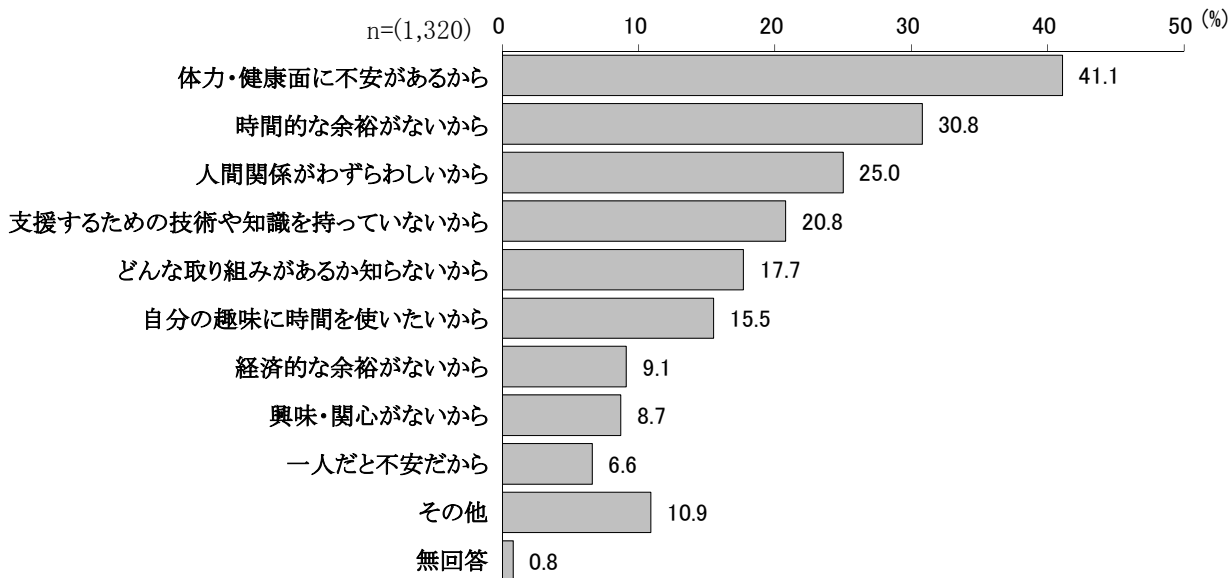
<図表97> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動への参加意向【性・年齢別】



⑤高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由

問20-1 《問20で「参加してみたいとは思わない」を選んだ方のみお答えください》  
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表98> 高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由（複数回答）



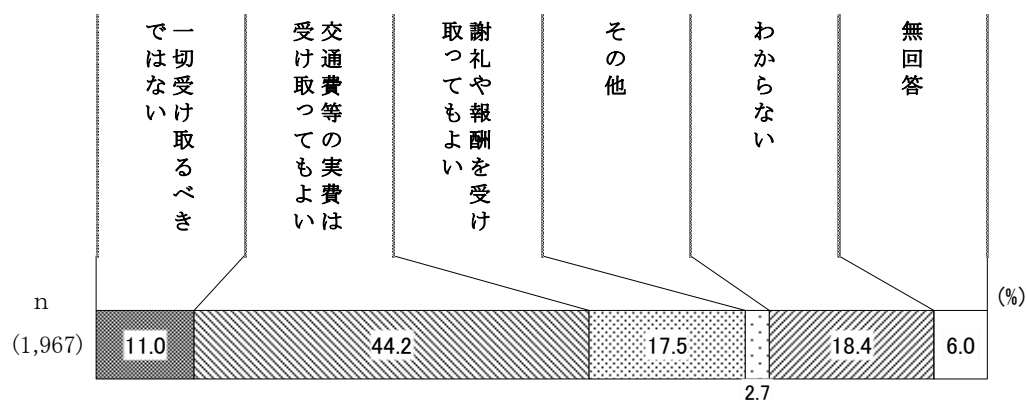
問20で「参加してみたいとは思わない」と回答した人に高齢者の身の回りの世話やボランティア活動に参加したくない理由をたずねたところ、「体力・健康面に不安があるから」(41.1%)が4割強と最も高く、次いで、「時間的な余裕がないから」(30.8%)、「人間関係がわずらわしいから」(25.0%)の順となっている。「その他」では、仕事をしているから、家族の世話・介護をしているから、体調不良・病気のため、高齢のためといった内容があげられた。



⑥ ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ること

問21 支援を必要とする地域の高齢者の身の回りの世話（ごみ出しや買い物の付き添い、見守り等）や生活を支援するボランティア活動をした人が、何らかの対価を受け取ることについて、あなたはどのように思いますか。（1つに○）

<図表99> ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ること

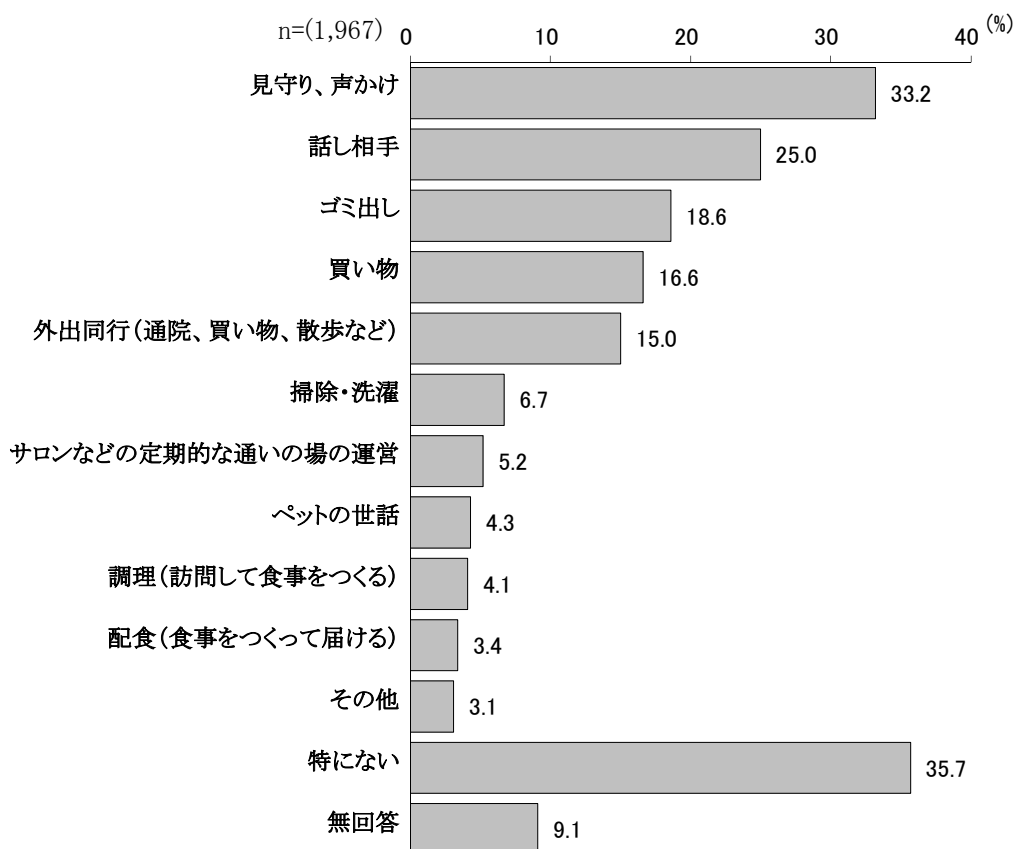


ボランティア活動をしたことに対する対価を受け取ることについてたずねたところ、「交通費等の実費は受け取ってもよい」（44.2%）が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「謝礼や報酬を受け取ってもよい」（17.5%）、「一切受け取るべきではない」（11.0%）の順となっている。

⑦自分が担うことができそうな支援・サービス

問22 支援を必要とする地域の高齢者の身の周りの世話や生活を支援するボランティア活動として、あなたが担うことのできそうな支援・サービス(現在支援しているものを含む)はありますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表100> 自分が担うことができそうな支援・サービス (複数回答)

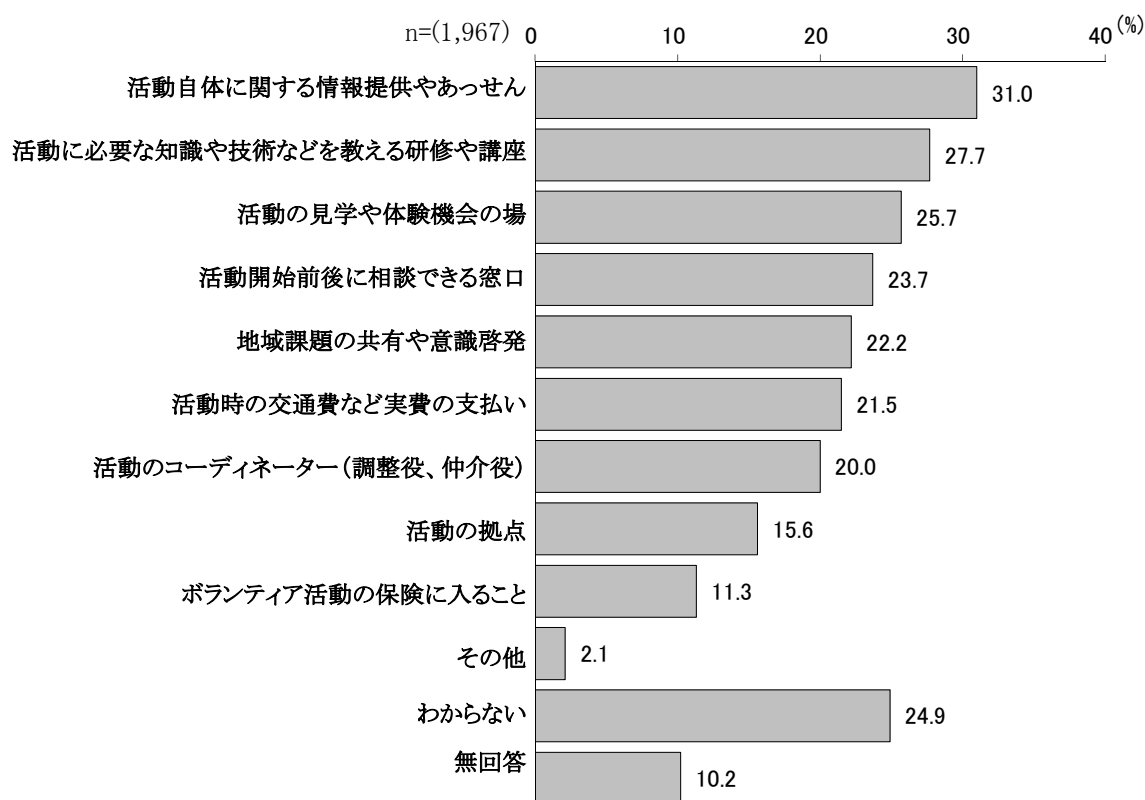


自分が担うことのできそうな支援・サービスについてたずねたところ、「見守り、声かけ」(33.2%)が3割台半ば近くで最も高く、次いで、「話し相手」(25.0%)、「ゴミ出し」(18.6%)の順となっている。

⑧ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート

問23 あなたは、支援を必要とする高齢者の身の回りの世話や生活を支援するボランティア活動を増やしていくために、どのようなサポートが必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表101> ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポート（複数回答）



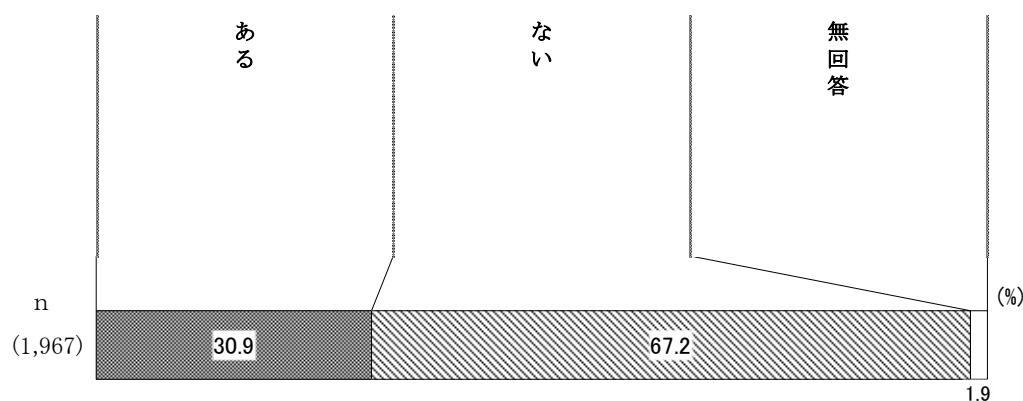
ボランティア活動を増やしていくのに必要なサポートをたずねたところ、「活動自体に関する情報提供やあっせん」(31.0%)が3割強で最も高く、次いで、「活動に必要な知識や技術などを教える研修や講座」(27.7%)、「活動の見学や体験機会の場」(25.7%)の順となっている。

(7) 認知症について

①この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況

問24 あなたは、この1年間に何度も、もの忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じたことがありますか。(1つに○)

<図表102> この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況

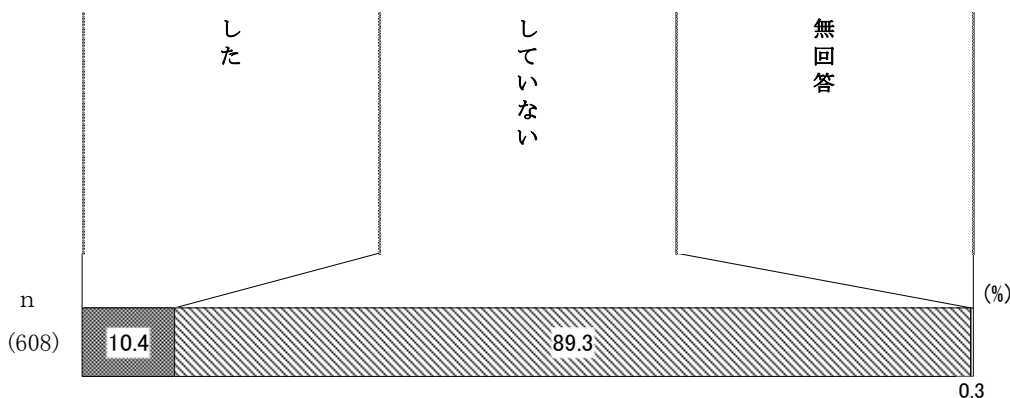


この1年間のもの忘れ、理解・判断力の低下の状況をたずねたところ、「ある」(30.9%)は約3割、「ない」(67.2%)は6割台半ばを超えている。

②もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

問24-1 <<問24で「ある」を選んだ方のみお答えください>>  
もの忘れや理解・判断力の低下などについて、どこかへ相談しましたか。  
(1つに○)

<図表103> もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無

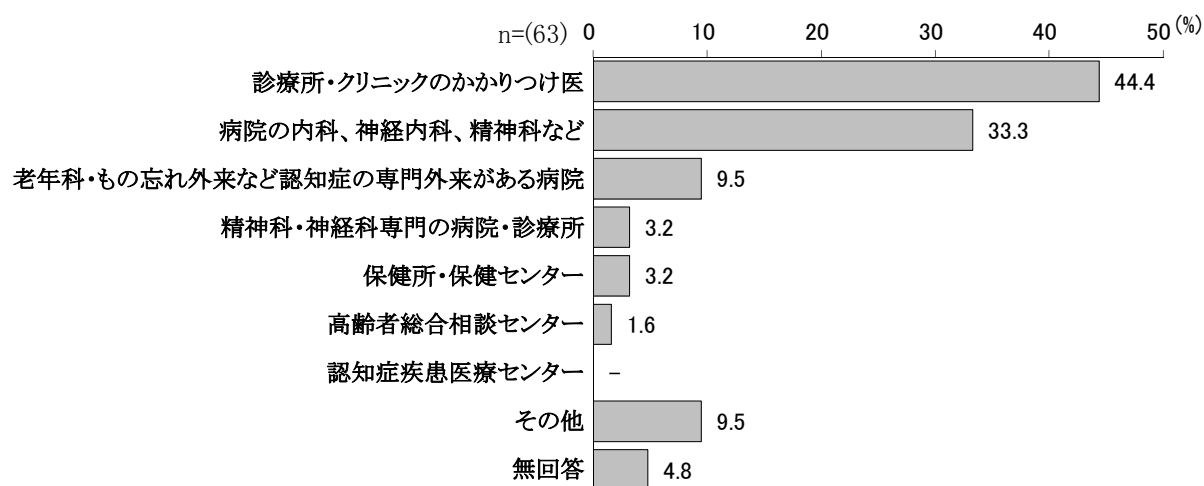


問24でもの忘れ、理解・判断力の低下が「ある」と回答した人に、もの忘れや理解・判断力の低下についての相談の有無をたずねたところ、「した」(10.4%)は約1割、「していない」(89.3%)は9割弱となっている。

③もの忘れや理解・判断能力低下についての相談先

問24-1-1 《問24-1で「した」を選んだ方のみお答えください》  
 どちらに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表104> もの忘れや理解・判断能力低下についての相談先（複数回答）

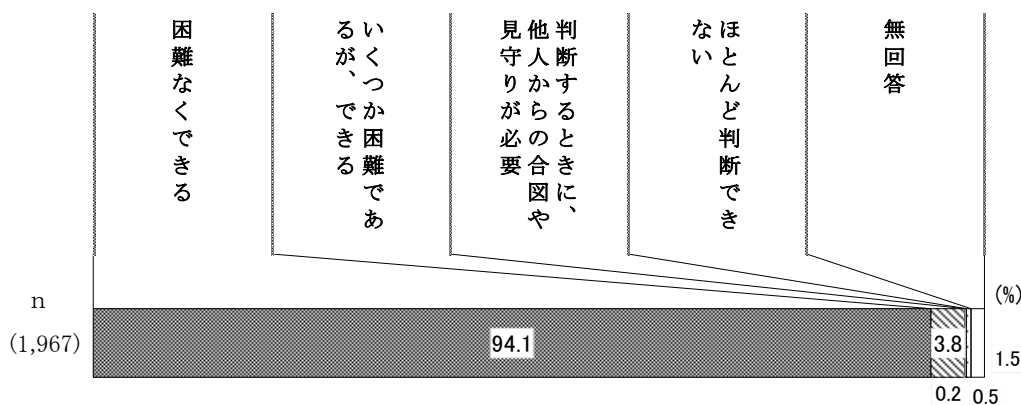


問24-1でもの忘れ、理解・判断力の低下について相談「した」と回答した人に、もの忘れや理解・判断力低下についての相談先をたずねたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医」（44.4％）が4割台半ば近くで最も高く、次いで、「病院の内科、神経内科、精神科など」（33.3％）、「老年科・もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」（9.5％）の順となっている。

④自身でのその日の活動の判断能力

問25 あなたは、その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。  
（1つに○）

<図表105> 自身でのその日の活動の判断能力

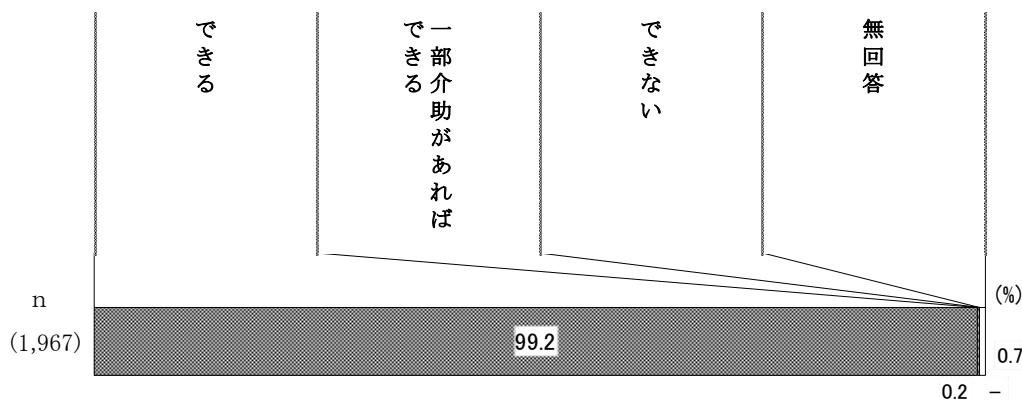


自身でのその日の活動の判断能力をたずねたところ、「困難なくできる」(94.1%)は9割台半ば近くとなっている。

⑤食事の状況

問26 あなたは、食事を自分で食べられますか。（1つに○）

<図表106> 食事の状況

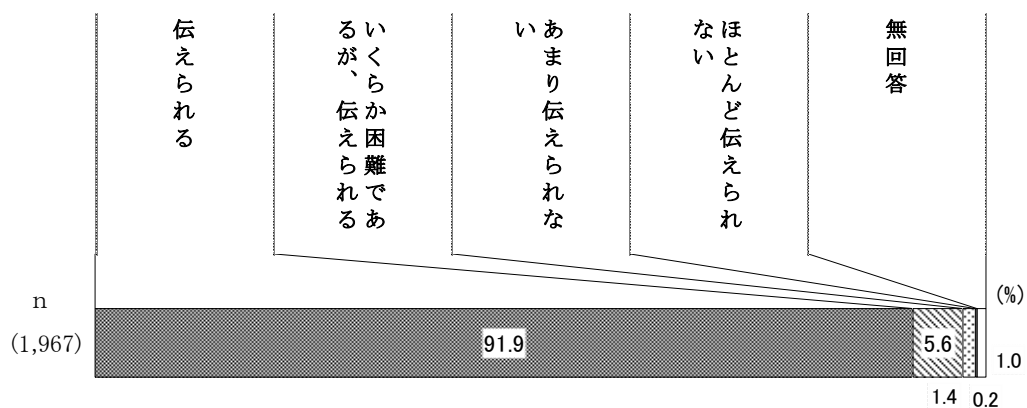


食事の状況（自分で食べられるかどうか）をたずねたところ、「できる」(99.2%)が10割弱となっている。

⑥意思の伝達

問27 あなたは、人に自分の考えをうまく伝えられますか。(1つに○)

<図表107> 意思の伝達

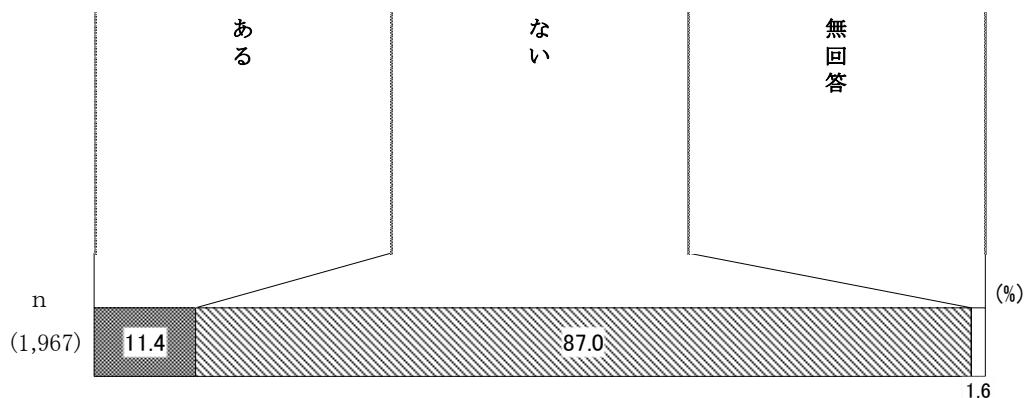


意思の伝達をたずねたところ、「伝えられる」(91.9%)が9割強で最も高くなっている。

⑦5分前の記憶

問28 毎日の生活で、5分前のことが思い出せないことがありますか。(1つに○)

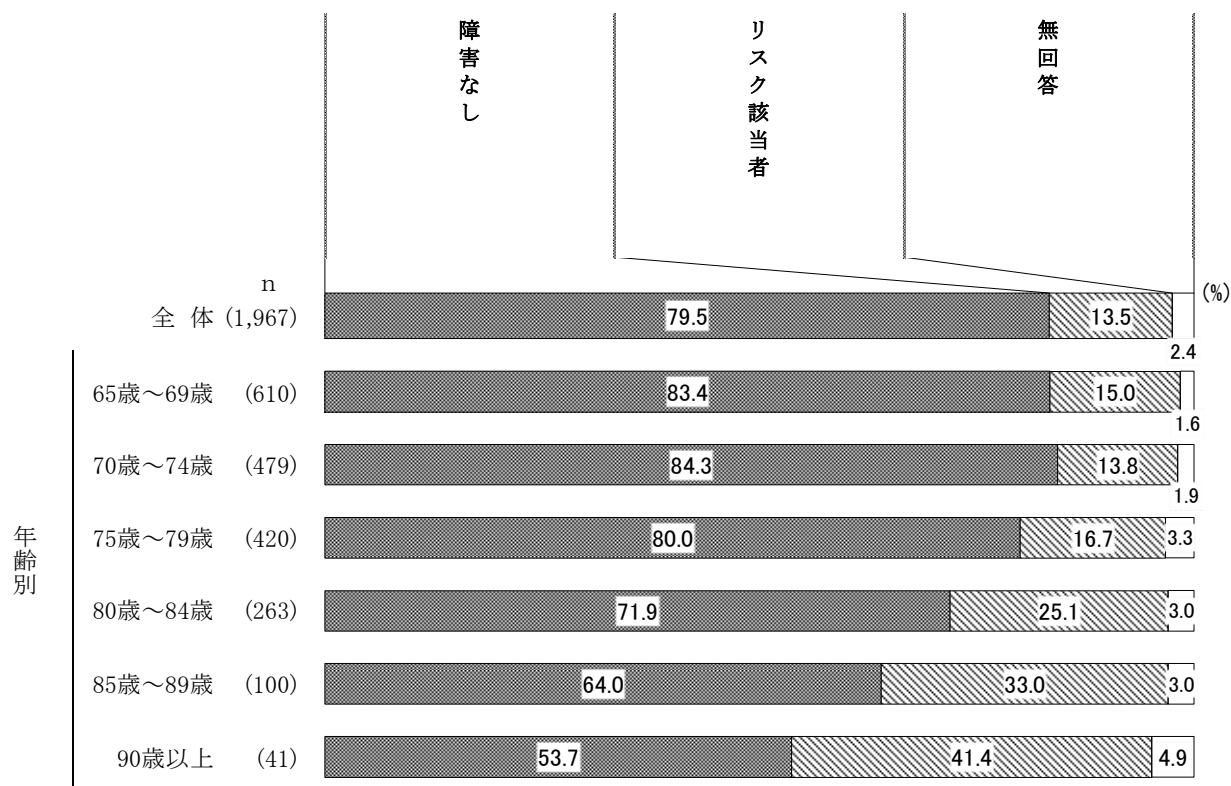
<図表108> 5分前の記憶



5分前の記憶をたずねたところ、思い出せないことが「ある」(11.4%)は1割強となっている。

⑧認知機能障害程度（CPS）

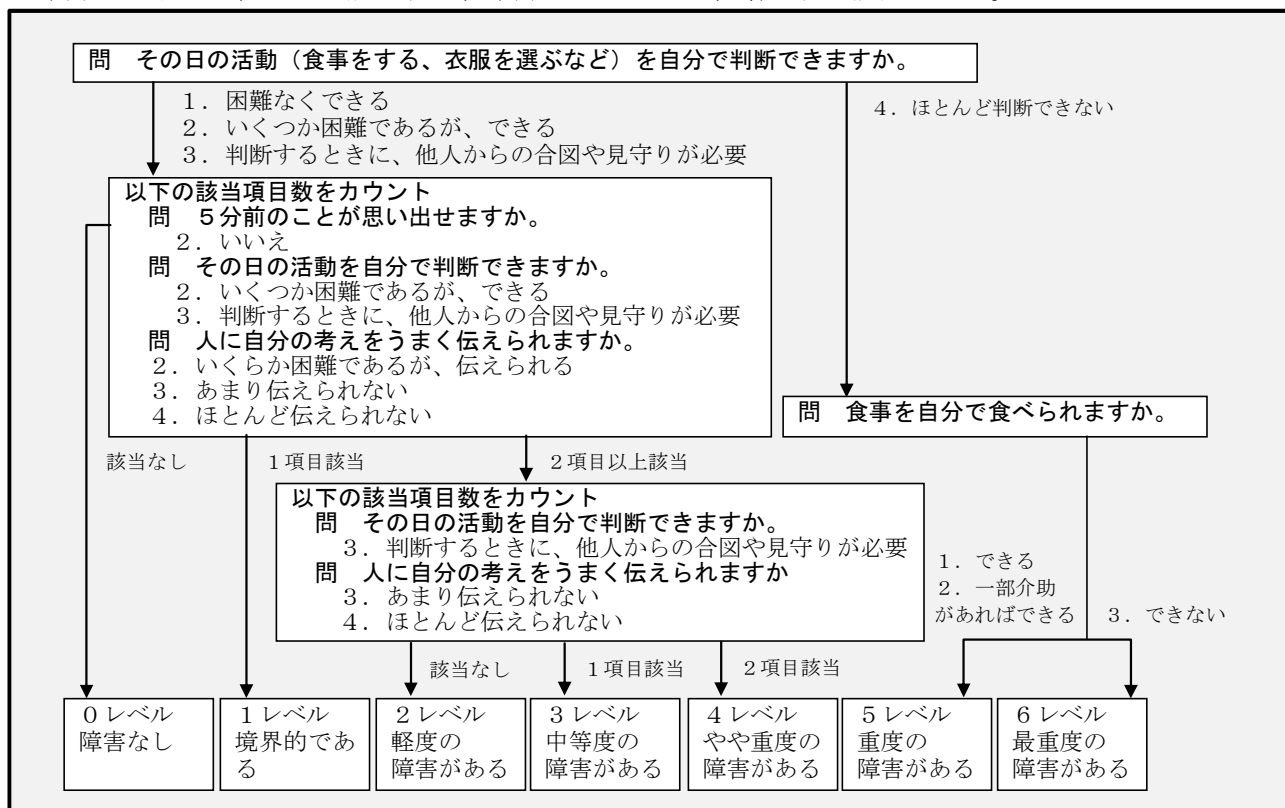
<図表109> 認知機能障害程度（CPS）【年齢別】



問25～問28の判断能力、意思伝達の状況等を用いて、認知機能のリスク該当者の算出を試みた。

1 レベル以上のリスク該当者(13.5%)は、1割台半ば近くとなっている。

年齢別で見ると、リスク該当者は、年齢が上がるほど、増加する傾向にある。

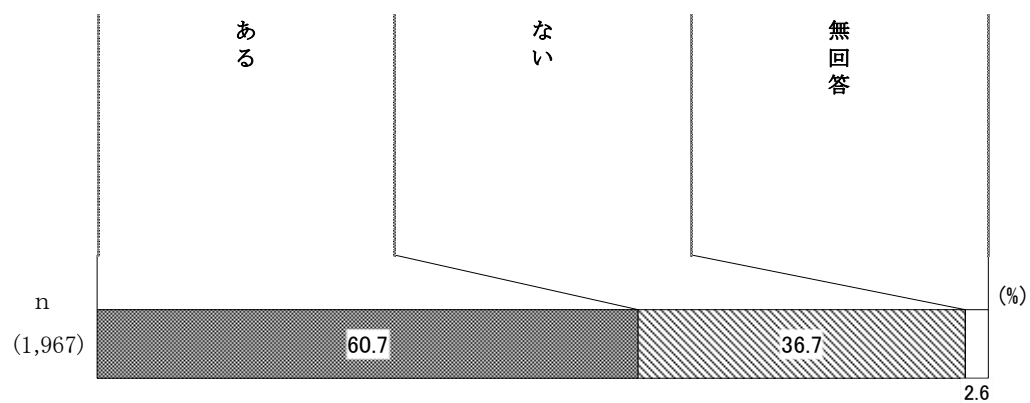




⑨自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無

問29 あなたは今までに、自身や家族等が認知症になったときのことについて、考えたことがありますか。(1つに○)

<図表110> 自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無

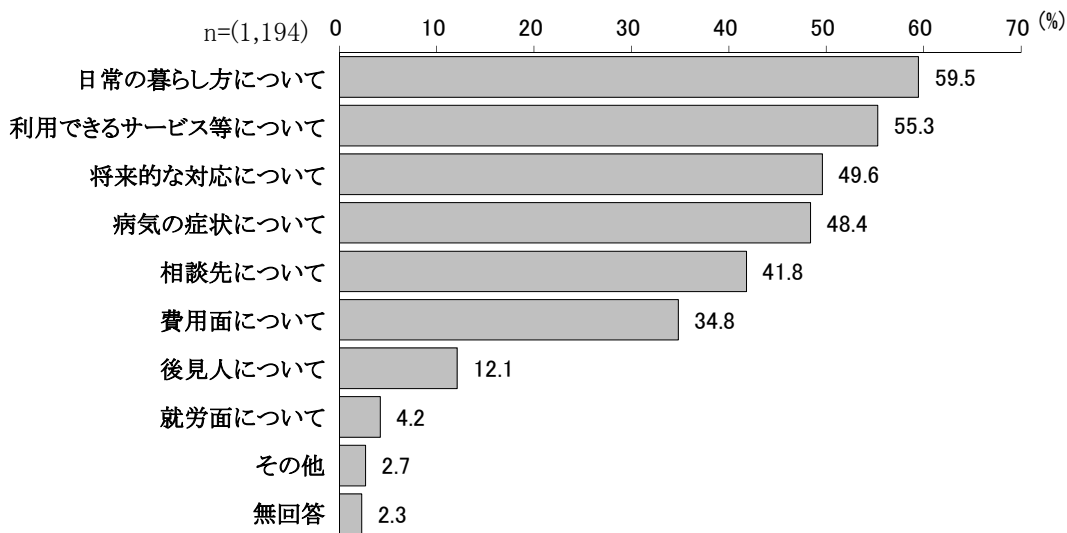


自身や家族が認知症になったときのことについて考えたことの有無をたずねたところ、「ある」(60.7%)は約6割となっている。

⑩自身や家族等が認知症になったときのことについて考えた内容

問29-1 《問29で「ある」を選んだ方のみお答えください》  
 どのようなことを考えましたか。(あてはまるものすべてに○)

<図表111> 自身や家族等が認知症になったときのことについて考えた内容 (複数回答)

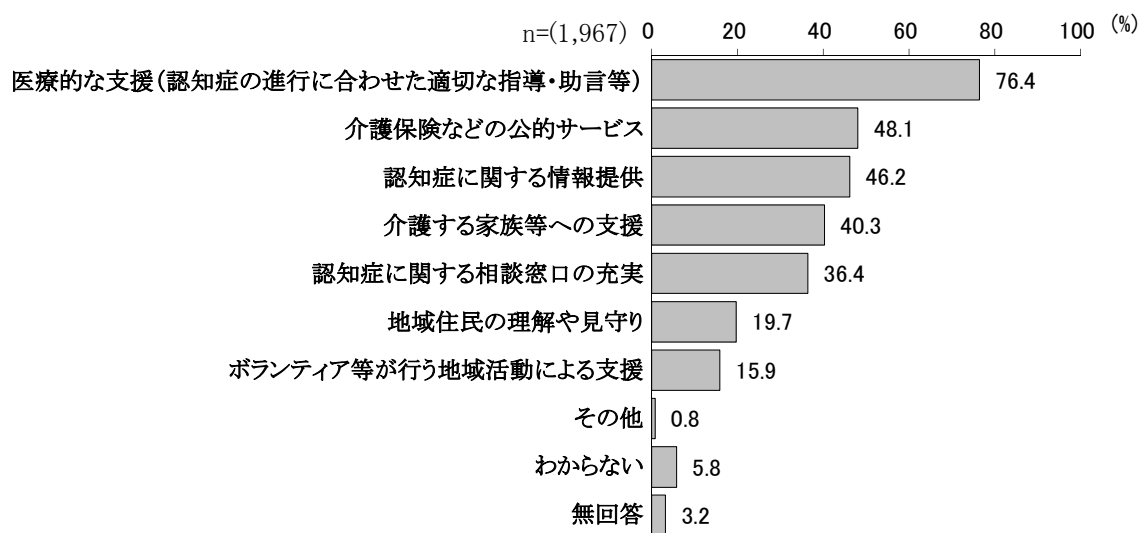


問29で自身や家族等が認知症になったときのことについて考えたことが「ある」と回答した人に、自身や家族等が認知症になったときのことについて考えたことをたずねたところ、「日常の暮らし方について」(59.5%)が6割弱で最も高く、次いで、「利用できるサービス等について」(55.3%)、「将来的な対応について」(49.6%)の順となっている。

⑪認知症が早期に発見された場合、必要な支援

問30 認知症が早期に発見された場合、進行を遅らせるなどの対応策があることがわかってきています。早期に発見された場合、どのような支援が必要だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

<図表112> 認知症が早期に発見された場合、必要な支援（複数回答）

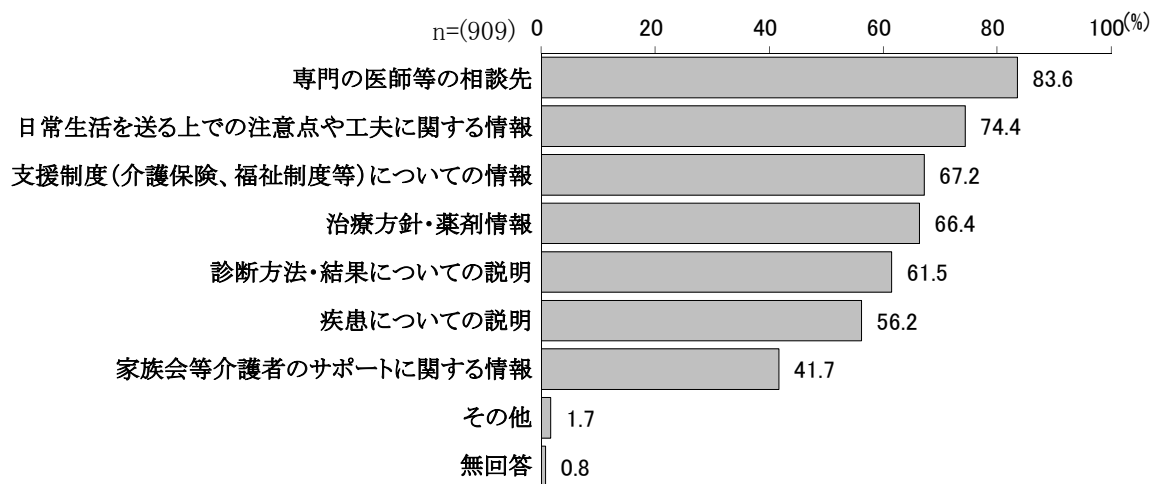


認知症が早期に発見された場合、必要な支援についてたずねたところ、「医療的な支援(認知症の進行に合わせた適切な指導・助言等)」(76.4%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで、「介護保険などの公的サービス」(48.1%)、「認知症に関する情報提供」(46.2%)の順となっている。

⑫認知症に関して必要な情報提供

問30-1 <<問30で「認知症に関する情報提供」を選んだ方のみお答えください>>  
 どのような情報提供が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表113> 認知症に関して必要な情報提供（複数回答）



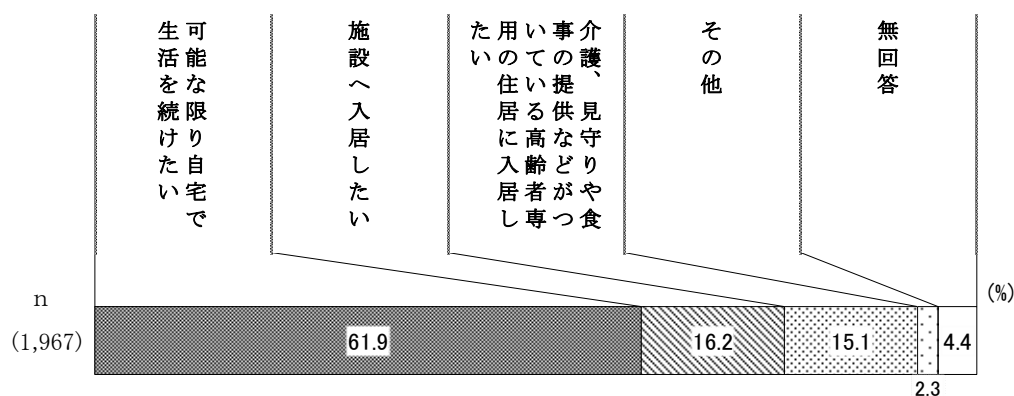
認知症に関して必要な情報提供についてたずねたところ、「専門の医師等の相談先」（83.6%）が8割台半ば近くと最も高く、次いで、「日常生活を送る上での注意点や工夫に関する情報」（74.4%）、「支援制度(介護保険、福祉制度等)についての情報」（67.2%）の順となっている。

(8) 在宅療養等について

①介護が必要になった場合の生活場所

問31 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。  
(1つに○)

<図表114> 介護が必要になった場合の生活場所

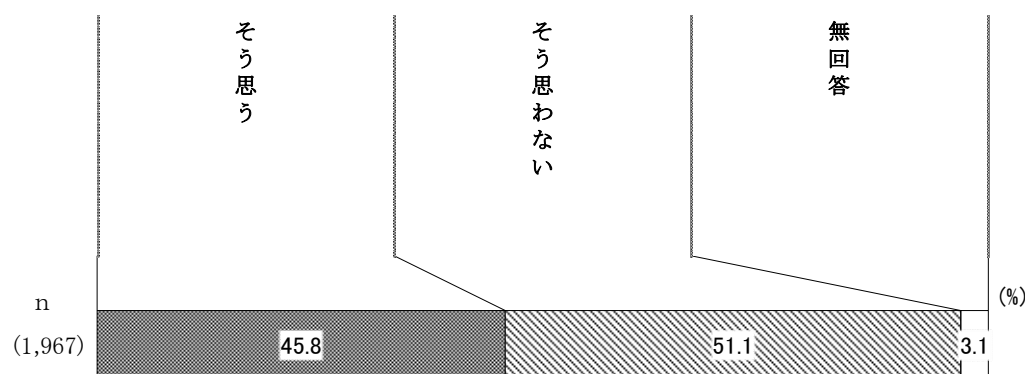


介護が必要になった場合の生活場所をたずねたところ、「可能な限り自宅で生活を続けたい」(61.9%)が6割強と最も高くなっている。

②在宅療養の意向

問32 あなたは、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅療養を続けたいと思いますか。(1つに○)

<図表115> 在宅療養の意向

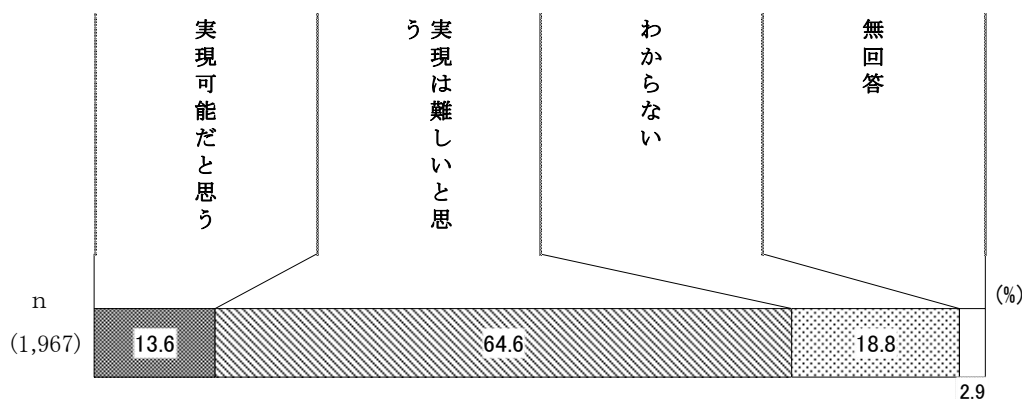


在宅療養の意向をたずねたところ、「そう思う」(45.8%)は4割台半ばとなっている。

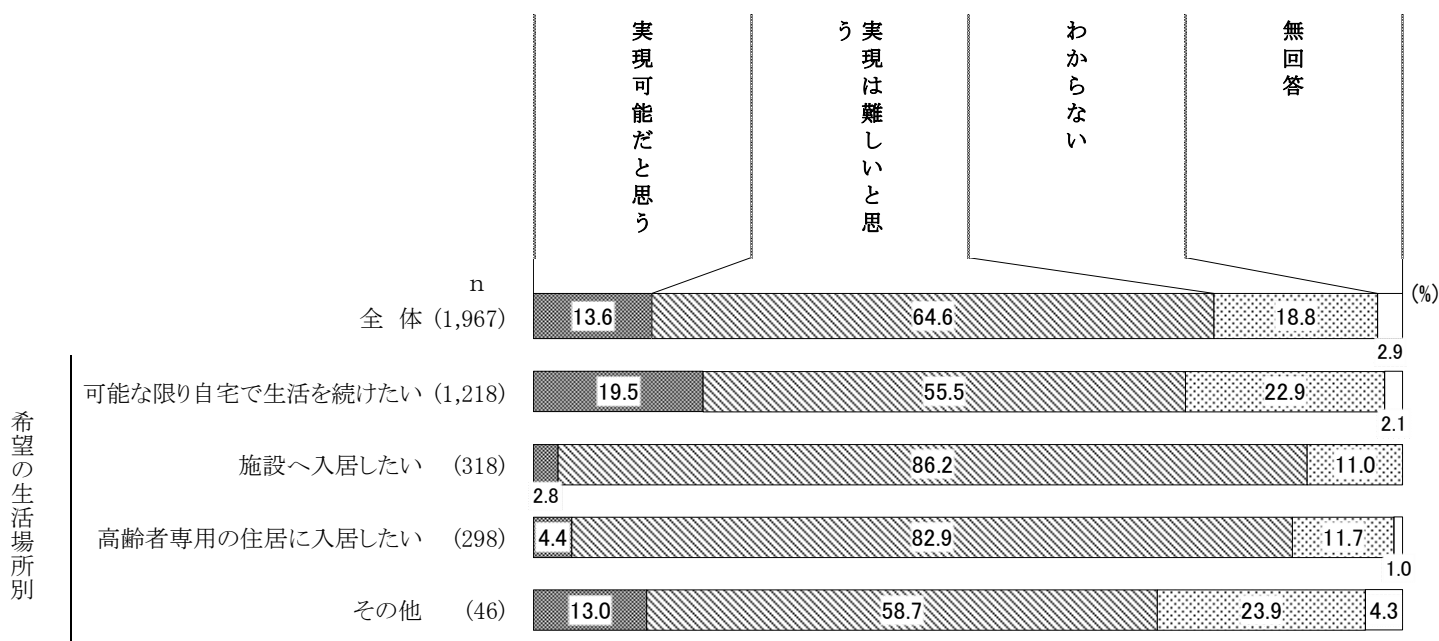
### ③在宅療養の可能性

問33 ご自宅での療養は実現可能だと思いますか。(1つに○)

<図表116> 在宅療養の可能性



<図表117> 在宅療養の可能性【介護が必要になった場合の生活場所別 (問31)】



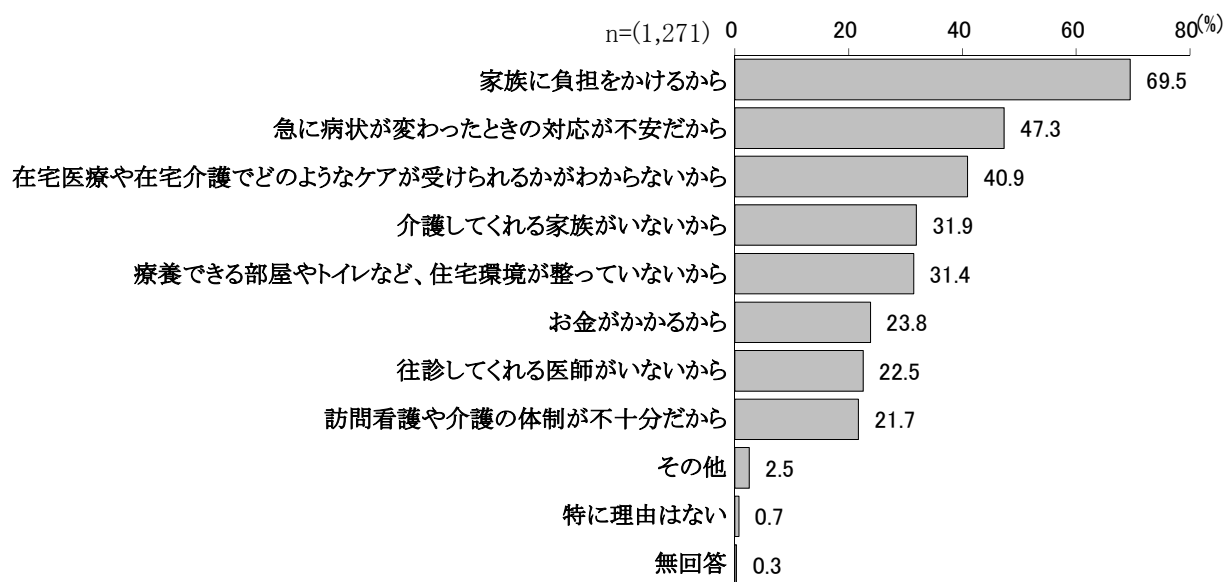
自宅での療養の可能性をたずねたところ、「実現は難しいと思う」(64.6%)は6割台半ば近くと最も高くなっている。

希望の生活場所別でみると、施設へ入居したいにおいて、「実現は難しいと思う」(86.2%)は8割台半ばを超えている。

④在宅療養が難しいと思う理由

問33-1 <<問33で「実現は難しいと思う」を選んだ方のみお答えください>>  
 実現は難しいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表118> 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）



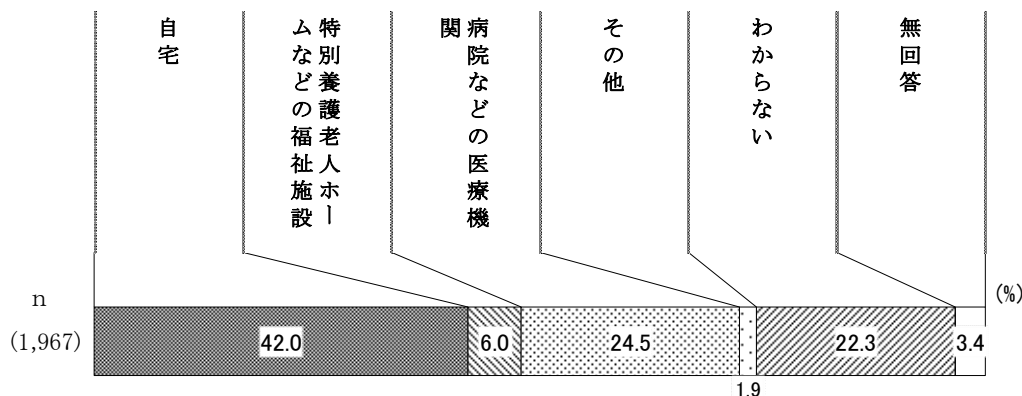
問33で「実現は難しいと思う」と回答した人に、在宅療養が難しいと思う理由をたずねたところ、「家族に負担をかけるから」(69.5%)が7割弱で最も高く、次いで、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(47.3%)、「在宅医療や在宅介護でどのようなケアが受けられるかがわからないから」(40.9%)の順となっている。

(9) 人生の最終段階における医療について

①最期を迎えたい場所

問34 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。(1つに○)

<図表119> 最期を迎えたい場所

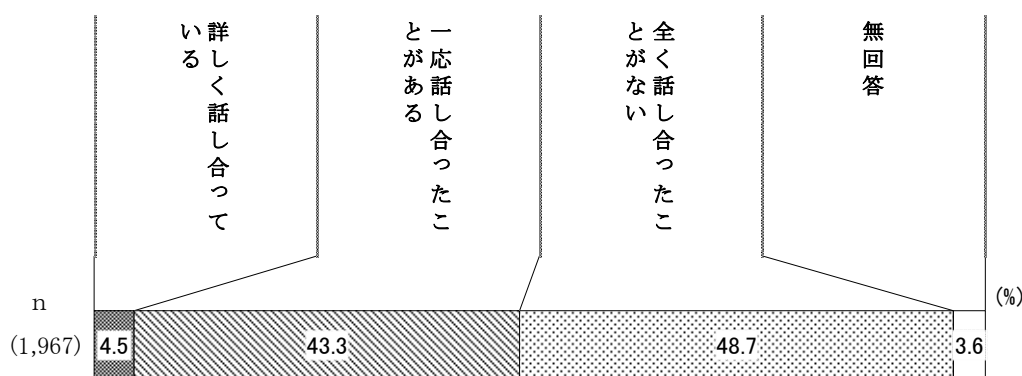


最期を迎えたい場所についてたずねたところ、「自宅」(42.0%)が4割強で最も高く、次いで、「病院などの医療機関」(24.5%)となっている。

②ご家族と話し合った経験

問35 あなたは、人生の最終段階において受けたい医療や受けたくない医療について、ご家族とどのくらい話し合ったことがありますか。(1つに○)

<図表120> ご家族と話し合った経験



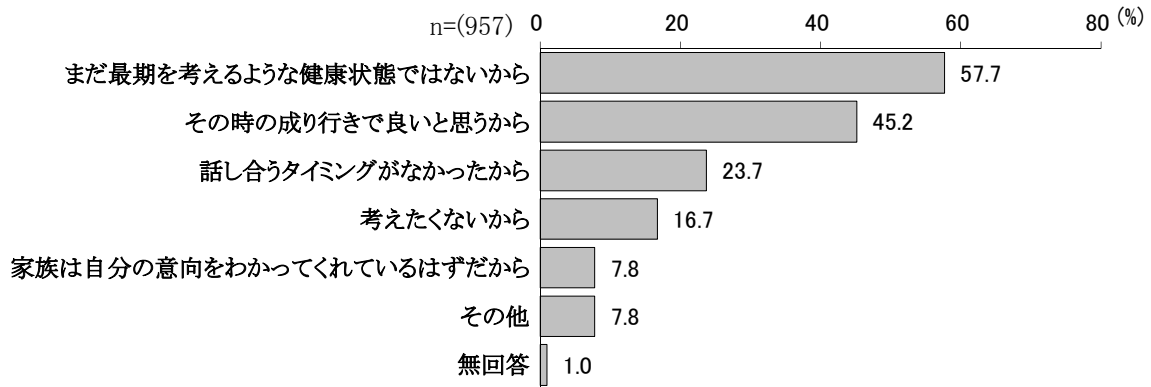
人生の最終段階で受けたい医療・受けたくない医療について話し合ったかたずねたところ、「全く話し合ったことがない」(48.7%)が5割近くとなっている。



③全く話し合ったことがない理由

問35-1 《問35で「全く話し合ったことがない」を選んだ方のみお答えください》  
それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表121> 全く話し合ったことがない理由 (複数回答)

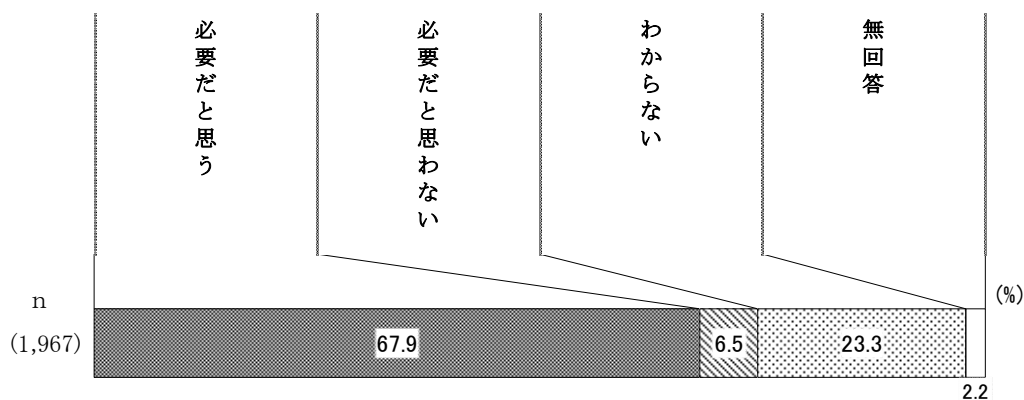


問35で「全く話し合ったことがない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「まだ最期を考えるような健康状態ではないから」(57.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「その時の成り行きで良いと思うから」(45.2%)、「話し合うタイミングがなかったから」(23.7%)の順となっている。

④エンディングノートの作成

問36 あなたは、自分で判断出来なくなった場合に備えて、どのような治療を受けたいかあるいは受けたくないかなどを記載した書面(エンディングノートなど)をあらかじめ作成しておくことについて、どう思いますか。(1つに○)

<図表122> エンディングノートの作成



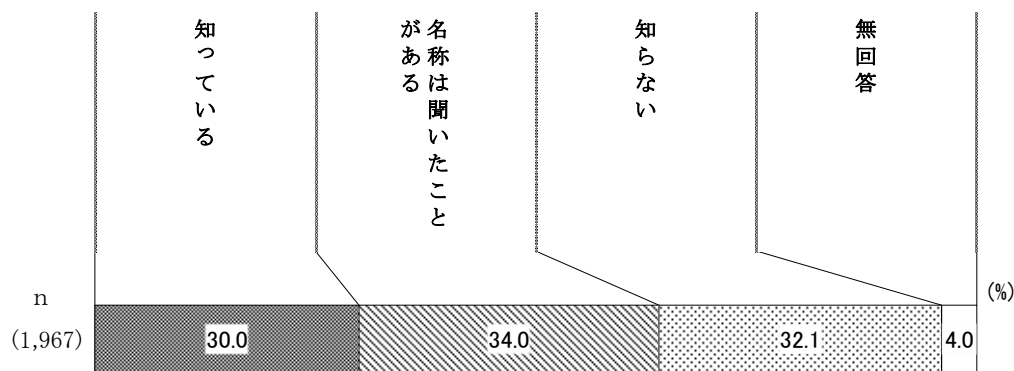
エンディングノートの作成についてたずねたところ、「必要だと思う」(67.9%)が6割台半ばを超えている。

(10) 緩和医療・ケアについて

①がんの「緩和医療・ケア」の認知度

問37 あなたは、がんの「緩和医療・ケア」について、ご存じですか。(1つに○)

<図表123> がんの「緩和医療・ケア」の認知度

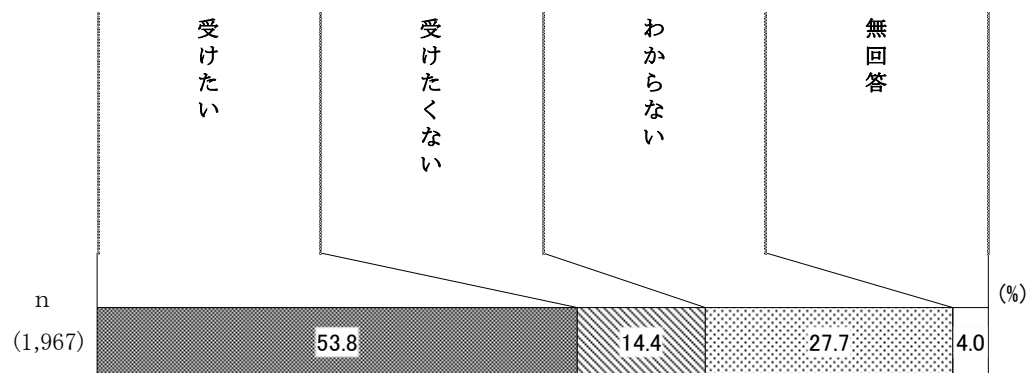


がんの「緩和医療・ケア」の認知度をたずねたところ、「知っている」(30.0%)は3割、「名称は聞いたことがある」(34.0%)は3割台半ば近くとなっている。

②がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

問38 あなたは、がんで、病状の回復が期待できない場合、「緩和医療・ケア」を受けたいですか。(1つに○)

<図表124> がんの「緩和医療・ケア」の利用意向

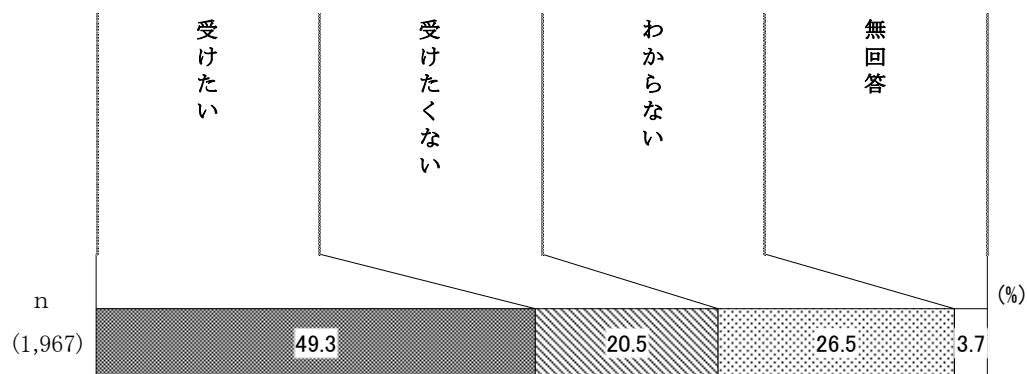


がんの「緩和医療・ケア」の利用意向をたずねたところ、「受けたい」(53.8%)は5割台半ば近くとなっている。

③がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向

問39 あなたは、がん以外の病気で、病状の回復が期待できない場合、症状の緩和を主とした医療・ケアを受けたいですか。(1つに○)

<図表125> がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向



がん以外の病気で、症状の緩和を主とした医療・ケアの利用意向をたずねたところ、「受けたい」(49.3%)は5割弱となっている。

④高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問40 最後に、高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご要望・ご意見がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、548人からの回答があった。回答の多かった内容は、「介護保険・保険料について」「高齢者向け施設について」「情報提供・相談について」の順であった。

各事項（その他除く）について、回答の中からいくつかの意見を示す。

介護保険・保険料について	高齢者向け施設について	情報提供・相談について	高齢者施策について	医療・保健について	健康・介護予防について	サービスについて	アンケートについて	人材・ボランティアについて	家族等介護者のことについて	住まいについて	認知症について	災害時・緊急時のことについて	その他
120	108	91	86	56	39	32	30	24	21	7	5	4	23

※1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

【介護保険・保険料について】

- ・介護保険料が少し高いように思う。
- ・医療保険、介護保険の利用方法もわかりやすくしてほしい。

【高齢者向け施設について】

- ・高齢で治らない病気になったら、痛みや苦しみのない状態で死ぬような、ホスピス病院のような場所がたくさんあればいいと思う。
- ・無収入になった時、安心して入れる施設を十分に作っておいてほしい。

【情報提供・相談について】

- ・高齢者に相談しやすい係が出来るといいと思う。
- ・高齢保健、介護保険をいざ必要となった時に、どうすれば利用できるのか、もっと広く分かりやすく知らせてほしい。

## 2-2 一般高齢者【重点】調査

### 【高齢者施策について】

- ・公的機関の充実が何よりも必要。
- ・新宿区は、とても良く取り組んでいると思う。個人が老後や死後について、元気うちに考えておくことが大切だと感じた。

### 【医療・保健について】

- ・緩和ケアの行える病棟の増加を望みます。
- ・医療（医師）の信頼性があると良い、病院でのスタッフとのケアが心の支えだと思う。

### 【健康・介護予防について】

- ・行政は病気になった後のことに力を入れているように思う。寝たきり、病気を防ぐことをもっと進めてほしい。
- ・健康診断の充実。人間ドック受診（特に「ガン」）案内等。

### 【サービスについて】

- ・在宅ケアがより容易に行えるような環境整備（サービス面、予算面）の改善が急務と考える。
- ・介護保険又は区でどのようなサービスがあるのか知りたい。

### 【アンケートについて】

- ・自分が高齢者のくくりの中に入ることがまだ実感できず、適確な回答ができていないと思う。
- ・母の介護を経験しました。15年の介護の中で、その時々はわからなかったことが今になって理解できることが沢山あります。アンケートの数字にとらわれすぎることが危険な場合もあることを理解する必要があると思います。

### 【人材・ボランティアについて】

- ・介護する方々のお給料をもっと上げてほしい。安すぎる。
- ・ボランティアの方にお世話になる可能性もあると思うが、そのボランティアの方が地域の方で、顔見知り…というのは辛い気持ちになると思う。

### 【家族等介護者のことについて】

- ・自宅での介護はたとえ諸々のサービスをつかっても、介護者の負担は大きく、介護者の生活が非常に制限されている。
- ・介護される側よりも介護する側に重きをおいた点を考えるべきと思う。

### 【住まいについて】

- ・ニュースで空き部屋が多いとか。家賃援助や更新料のない部屋を安く貸す制度があれば、一人暮らしの低年金者としては助かる。

【認知症について】

- ・認知症の方が近所にいるが、近隣としてのサポートはいろいろな臆測をされ、お節介扱いされ、敬遠されるようである。

【災害時・緊急時のことについて】

- ・現在1人住まいのため、健康に留意している。災害等の時はすぐ見回り隊が必要と思う。